

2010年度

事業報告書

学校法人 中西学園

目 次

I	学校法人の概要	1
II	事業の概要	
1	名古屋外国語大学	5
2	名古屋学芸大学	26
3	名古屋学芸大学短期大学部	44
4	NSC 専門学校	55
5	菱野幼稚園	57
6	土地・施設設備整備事業	58
III	財務の概要	59

I 学校法人の概要

① 建学の理念・教育目標

本学園は、昭和 20 年創立の「すみれ洋裁学院」を母体に、現在、名古屋外国語大学・名古屋学芸大学・名古屋学芸大学短期大学部・菱野幼稚園・名古屋ファッション専門学校・名古屋栄養専門学校・名古屋総合デザイン専門学校・名古屋製菓専門学校の 8 校を設置するに至っている。

教育の原点は「個性を生かした人間形成」にあるとの信念に立ち、建学の精神である「人間教育と実学」を通じて、地域社会における文化の創造・発展と人類福祉の向上に貢献し得る人材養成をその使命とし、今後益々複雑化するであろう国際化社会に対応するため、「高度化＝教育・研究の質的充実」「個性化＝特色ある教育・研究」「活性化＝自己点検・評価による教育・研究の向上」を基本方針としている。

②沿革

- 昭和 20 年(1945 年)12 月 1 日 すみれ洋裁学院を創立
- 昭和 24 年(1945 年)4 月 1 日 名古屋市中区宮出町 5 2 番地に校舎竣工
- 昭和 26 年(1951 年)3 月 7 日 私立学校法第 6 4 条第 4 項に基づく「学校法人中西学園」(愛知県)となる
- 昭和 38 年(1963 年)1 月 21 日 学校法人中西学園(文部省)となる
- 昭和 38 年(1963 年)4 月 1 日 すみれ女子短期大学開学(服装科)
- 昭和 39 年(1964 年)4 月 1 日 すみれ女子短期大学家政科開設
- 昭和 41 年(1966 年)4 月 1 日 すみれ女子短期大学家政科の入学定員変更並びに専攻科設置
- 昭和 42 年(1967 年)4 月 1 日 すみれ女子短期大学家政科及び服装科の入学定員変更
- 昭和 44 年(1969 年)4 月 1 日 すみれ女子短期大学家政科を家政学科に、服装科を服装学科に名称変更するとともに入学定員変更
- 昭和 48 年(1973 年)4 月 1 日 菱野幼稚園開園
- 昭和 51 年(1976 年)4 月 1 日 すみれ女子短期大学家政学科及び服装学科の入学定員変更
- 昭和 52 年(1977 年)4 月 1 日 「すみれ女子短期大学」を「愛知女子短期大学」に名称変更
- 昭和 53 年(1978 年)1 月 30 日 法人所在地の住居表示が「名古屋市中区宮出町 52 番地」から「名古屋市中区新栄一丁目 9 番 6 号」に変更
- 昭和 56 年(1981 年)7 月 31 日 愛知女子短期大学日進学舎竣工
- 昭和 56 年(1981 年)8 月 1 日 愛知女子短期大学 愛知県愛知郡日進町大字岩崎字竹の山 5 7 番地に移転
- 昭和 57 年(1982 年)4 月 1 日 「すみれ洋裁学院」を専修学校に移行。名称を「名古屋ファッション専門学校」に変更。同時に「名古屋総合ビジネス専門学校」「名古屋栄養専門学校」「名古屋総合デザイン専門学校」の 3 校開校
- 昭和 58 年(1983 年)4 月 1 日 愛知女子短期大学人文学科及び経営学科開設。同時に「名古屋建築設備専門学校」開校
- 昭和 61 年(1986 年)4 月 1 日 愛知女子短期大学の 4 学科に平成 1 1 年度までの期間を付した収容定員変更

- 昭和 63 年(1988 年)4 月 1 日 名古屋外国語大学開学 (外国語学部英米語学科・フランス語学科・中国語学科)
- 昭和 63 年(1988 年)8 月 26 日 法人事務所所在地を「愛知郡日進町大字岩崎字竹の山 5 7 番地」に変更
- 平成 2 年(1990 年)4 月 1 日 名古屋外国語大学外国語学部の平成 1 0 年度までの期間を付した収容定員変更
- 平成 3 年(1991 年)4 月 1 日 愛知女子短期大学経営学科及び服装学科の入学定員変更並びに経営学科の 1999 年度までの期間を付した収容定員変更。又、愛知女子短期大学人文学科英語英文学専攻を人文学科英米語専攻に、家政学科家政学専攻を生活科学科生活科学専攻に、家政学科食物栄養学専攻を生活科学科食物栄養学専攻にそれぞれ名称変更。更に、人文学科国語国文学専攻と英米語専攻との間で入学定員振替
- 平成 4 年(1992 年)4 月 1 日 名古屋外国語大学外国語学部英米語学科の平成 1 1 年度までの期間を付した収容定員変更
- 平成 6 年(1994 年)4 月 1 日 名古屋外国語大学国際経営学部開設。これに伴い、愛知女子短期大学経営学科経営専攻の募集停止、人文学科英米語専攻・生活科学科食物栄養学専攻・服装学科服装学専攻の入学定員削減
- 平成 6 年(1994 年)10 月 1 日 市政施行に伴い法人所在地の住居表示が「愛知郡日進町大字岩崎字竹の山 5 7 番地」から「日進市岩崎町竹の山 5 7 番地」に変更
- 平成 7 年(1995 年)4 月 1 日 愛知女子短期大学経営学科経営専攻の廃止
- 平成 8 年(1996 年)4 月 1 日 名古屋外国語大学外国語学部英米語学科編入学定員設置
- 平成 9 年(1997 年)4 月 1 日 名古屋外国語大学大学院国際コミュニケーション研究科開設。又、愛知女子短期大学服装学科を生活造形学科に、服装学科服装学専攻を生活造形学科服飾造形専攻に人文学科国語国文学専攻を人文学科日本語日本文学専攻に、経営学科情報専攻を経営学科経営情報専攻にそれぞれ名称変更。更に、人文学科日本語日本文学専攻と英米語専攻との間、及び生活造形学科服飾造形専攻と生活デザイン専攻との間で入学定員振替
- 平成 10 年(1998 年)4 月 1 日 名古屋製菓専門学校設置及び名古屋建築設備専門学校を名古屋建築土木専門学校に名称変更
- 平成 11 年(1999 年)4 月 1 日 名古屋外国語大学大学院国際コミュニケーション研究科博士課程 (後期) 設置及び、修士課程を博士課程 (前期) に組織変更。又、名古屋外国語大学外国語学部日本語学科設置。更に、英米語学科の入学定員増愛知女子短期大学人文学科日本語日本文学専攻、英米語専攻、文化史専攻及び、経営学科経営情報専攻、秘書専攻の入学定員変更
- 平成 12 年(2000 年)4 月 1 日 名古屋外国語大学と愛知女子短期大学との間で入学定員振替。及び 1999 年度までの期間を付した収容定員変更。また、愛知女子短期大学人文学科を言語コミュニケーション学科に、人文学科日本語日本文学専攻を言語コミュニケーション学科日本語専攻にそれぞれ名称変更。同時に人文学科文化史専攻の募集停止。更に名古屋総合ビジネス専門学校の廃止
- 平成 13 年(2001 年)4 月 1 日 名古屋外国語大学と愛知女子短期大学との間で入学定員振替。及び、平成 11

- 年度までの期間を付した収容定員変更。また、名古屋外国語大学留学生別科設置。更に、愛知女子短期大学経営学科をビジネス情報学科に、経営学科経営情報専攻及び秘書専攻をビジネス情報学科ビジネス情報専攻及びビジネス実務専攻にそれぞれ名称変更、人文学科文化史専攻を廃止
- 平成 14 年(2002 年) 4 月 1 日 名古屋学芸大学設置。及び、名古屋外国語大学と愛知女子短期大学との間で入学定員振替。また、平成 11 年度までの期間を付した収容定員変更。更に、愛知女子短期大学の専攻区分を廃止し、学科コースへ組織変更し、それに伴い専攻課程の募集停止
- 平成 15 年(2003 年) 4 月 1 日 名古屋外国語大学と愛知女子短期大学との間で入学定員振替及び、1999 年度までの期間を付した収容定員変更。また、愛知女子短期大学の専攻課程廃止（在学者のいる専攻を除く）。更に、名古屋建築土木専門学校を名古屋環境建設専門学校に名称変更
- 平成 15 年(2004 年) 4 月 1 日 名古屋外国語大学現代国際学部設置。これに伴い、国際経営学部の募集停止。また、愛知女子短期大学を名古屋学芸大学短期大学部に名称変更。同時に、言語コミュニケーション学科、ビジネス情報学科の入学定員増及び、生活造形学科募集停止、名古屋外国語大学と愛知女子短期大学との間で入学定員振替及び、1999 年度までの期間を付した収容定員変更。更に、名古屋学芸大学メディア造形学部映像メディア学科、デザイン学科、ファッション造形学科の入学定員増
- 平成 17 年(2005 年) 4 月 1 日 名古屋学芸大学ヒューマンケア学部設置。また、名古屋学芸大学短期大学部ビジネス情報学科及び生活科学科の入学定員変更
- 平成 18 年(2006 年) 4 月 1 日 名古屋学芸大学大学院栄養科学研究科及びメディア造形研究科設置。また、名古屋学芸大学ヒューマンケア学部の入学定員変更、名古屋学芸大学短期大学部生活造形学科を廃止
- 平成 19 年(2007 年) 4 月 1 日 名古屋学芸大学短期大学部現代総合学科設置。これに伴い、言語コミュニケーション学科、ビジネス情報学科、生活科学科を募集停止。名古屋環境建設専門学校を専門学校 NSC デザイン工科カレッジに名称変更。また、名古屋総合デザイン専門学校を募集停止
- 平成 20 年(2008 年) 4 月 1 日 名古屋外国語大学外国語学部英語教育学科設置。これに伴い外国語学部フランス語学科、中国語学科、日本語学科及び現代国際学部国際ビジネス学科の入学定員変更。名古屋学芸大学大学院栄養科学研究科博士課程（後期）設置 及び、修士課程を博士課程（前期）に組織変更。また、名古屋学芸大学短期大学部言語コミュニケーション学科及び生活科学科を廃止
- 平成 21 年(2009 年) 4 月 1 日 名古屋学芸大学短期大学部家政学専攻科廃止。名古屋総合デザイン専門学校再開。専門学校 NSC デザイン工科カレッジ募集停止
- 平成 22 年(2010 年) 4 月 1 日 名古屋外国語大学外国語学部フランス語学科、中国語学科、日本語学科、現代

国際学部国際ビジネス学科及び名古屋学芸大学短期大学部現代総合学科の入学定員変更。専門学校 NSC デザイン工科カレッジ廃止

③設置する学校等

理事長 中西 克彦

学校名	所在地	学長・校長・園長名
名古屋外国語大学	愛知県日進市岩崎町竹の山 57 番地	水谷 修
名古屋学芸大学	愛知県日進市岩崎町竹の山 57 番地	井形 昭弘
名古屋学芸大学短期大学部	愛知県日進市岩崎町竹の山 57 番地	井形 昭弘
名古屋ファッション専門学校	愛知県名古屋市中区新栄一丁目 9 番 6 号	井後 治子
名古屋栄養専門学校	愛知県名古屋市中区新栄一丁目 9 番 6 号	檜尾 一
名古屋総合デザイン専門学校	愛知県名古屋市中区新栄一丁目 9 番 6 号	大西 甫
名古屋製菓専門学校	愛知県名古屋市中区新栄一丁目 9 番 6 号	中西 義裕
菱野幼稚園	愛知県瀬戸市萩山台七丁目 1 3 番 1 号	大島 泰子

④役員及び教職員に関する情報

(1) 役員数

	定数	現員数
理事	13～19	17
監事	3	3
評議員	29～39	35

(2) 専任教職員数

学校名	教員数	職員数	計
名古屋外国語大学	125	56	181
名古屋学芸大学	128	56	184
名古屋学芸大学短期大学部	26	11	37
菱野幼稚園	16	1	17
名古屋ファッション専門学校	7	2	9
名古屋栄養専門学校	13	1	14
名古屋総合デザイン専門学校	4	2	6
名古屋製菓専門学校	8	8	16
合 計	327	137	464

II. 事業の概要

1 名古屋外国語大学

(1) 建学の理念・教育目標

本学の建学の理念は「人間教育と実学」であるが、その目的は時代と社会の要請に応じていく実学を発展させることであり、外国語大学として、「21世紀の地球社会で活躍できる国際感覚豊かな人材を養成する」ことを教育目標としている。具体的な教育指導活動は、一人ひとりの学生を大切にするという基本的な教育理念に基づき、学生の能力の個人差を大切にし、まわりの人たちに信頼され、愛される人材を育てることにある。

[大学院国際コミュニケーション研究科]

本研究科は、高等教育機関として一層の研究・教育の高度化を図り、国際化・多様化する社会的要請に応えるために学際的な大学院として設置されたものであり、グローバルなコミュニケーション能力を有し、高度な専門性を実践できる専門家・職業人を養成し、国際社会において世界規模で貢献し得る有為の人材を育成することを目的とする。

[外国語学部]

① 英米語学科

自分と異なるものも受け入れる心の広さや優しさを持ち、ますます国際化する社会に対応できる知性、教養、倫理を持つ一方で、高度な英語力に基づく豊かでバランスのとれた国際感覚を身につけ、21世紀の世界で活躍できる人材の養成を目的とする。

② 英語教育学科

教職に対する強い情熱と総合的な人間力を備えるとともに、教育の専門家としての確かな力量、とりわけ英語によるコミュニケーション能力の育成を図る授業を行うことのできる英語力及び授業力を備えた国際感覚豊かな英語教員の養成を目的とする。

③ フランス語学科

充実したフランス語教育を基盤に「フランス語研究」、「フランス文化」、「フランスビジネス」の各コースにおいて専門教育を展開することにより、高度なフランス語力と豊かな国際感覚及び教養を持ち合わせ、国際社会で生きていくことのできる人材の養成を目的とする。

④ 中国語学科

充実した中国語教育を基盤に「中国語・中国文化研究」と「中国ビジネス研究」の2つのコースにより高度な専門教育を行ない、日中間やアジアを軸に現代国際社会において活躍できる人材の養成を目的とする。

⑤ 日本語学科

日本語の確実な運用能力と日本文化に関する豊富な知識を基盤として、現代社会で活躍し自己を実現していくために求められる高度な対人行動能力や、説明・交渉・教育の能力を備え、あわせて外国語による発信の能力を身につけた人材の養成を目的とする。

[現代国際学部]

① 国際ビジネス学科

英語をビジネスで活かすことのできる能力とグローバルな経済活動を展開している企業が求めている知識・能力を「マネジメント」、「マーケティング」、「ファイナンス」、「アカウントティング」の系で学び、国際的なセンスを身につけた人材の養成を目的とする。

② 現代英語学科

実践的な英語力を身につけたうえで、「ツーリズム・ホスピタリティ」、「国際交流・国際ボランティア」、「ジャーナリズム・メディア」、「通訳・翻訳」、「英語教育・児童英語教育」など、特に英語によるコミュニケーションが大切な役割を果たす諸分野を専門的に学び、世界で活躍できる人材の養成を目的とする。

(2) 教育・研究の概要

① 教育研究上の基本となる組織に関する情報

学部・研究科名	学科・専攻及び課程名
国際コミュニケーション研究科	国際コミュニケーション専攻博士課程（前期）
	国際コミュニケーション専攻博士課程（後期）
外国語学部	英米語学科
	英語教育学科
	フランス語学科
	中国語学科
	日本語学科
国際経営学部	国際経営学科
現代国際学部	国際ビジネス学科
	現代英語学科
日本語教育センター（留学生別科）	

② 教員組織及び教員数並びに教員の保有学位、業績に関する情報

[教員組織及び教員数]

学部・学科、研究科・専攻研究所等		専任教員数					
		教授	准教授	講師	助教	計	助手
外国語学部	英米語学科	9	10	7		26	9
	英語教育学科	6	2			8	1
	フランス語学科	3	4	1		8	2
	中国語学科	5	3	1		9	1
	日本語学科	6		2		8	2
	計	29	19	11		59	15
現代国際学部	国際ビジネス学科	8				8	5
	現代英語学科	8	4	6		18	
	計	16	4	6		26	5
国際コミュニケーション研究科	国際コミュニケーション専攻	1				1	1
(その他の組織)							
国際コミュニケーション研究所							
総合教養		6	3	1		10	1
教職センター (教職課程)		2				2	
日本語教育センター (留学生別科)		1		2		3	
メディア情報教育センター							
合計		55	29	20		101	22

※総合教養：総合教養科目（教養教育科目、体育科目）、外国語科目（副専攻語学）を担当する教員。

※講師には招聘講師を含む。 ※助手にはランゲージチューターを含む。 ※学長及び副学長は除く。

[教員の保有学位または職務上の実績等]

学長

職名	役職	氏名	学位
教授	学長 国際コミュニケーション研究所長	水谷 修	

英米語学科

職名	役職	氏名	学位
教授	副学長・学部長	松野 和彦	文学修士
教授	教務部長	喜多村 康二	文学修士
教授	国際コミュニケーション研究科長	廣瀬 正宜	Ph.D.(言語学)
教授	英米語学科長	平井 秀和	M.A.(英語教育)

教授		水光 雅則	文学修士
教授		森川 正博	Ph.D.(言語学)
教授		William Plain	M.A.(英語教育)
教授		水岡 久	文学修士
教授		武藤 ナンシー	文学修士
教授		Philip A. RUSH	M.A.(現代言語)
特任教授		光岡 寿之	
准教授		Tom M. KENNY	M.A.(言語論)
准教授		鬼頭 延寧	教育学修士
准教授		藤井 加代子	文学修士
准教授		宇治谷 映子	M.A.(英語教育)
准教授		Brian R. MCNEILL	M.A.(英語教育)
准教授		梅垣 昌子	文学修士
准教授		熊本 たま	M.A.(英語教育)
准教授		Humphrey 恵子	文学修士
准教授		甲斐 清高	博士(文学)
准教授		S. J. HUMPHREY	M.Phil.(応用言語学) M.Phil.(教育学) M.A.(TEFL)
講師		Crane ROHRBACH	M.A.(英文学)
招聘講師		James Prosser	M.A.(TEFL)
招聘講師		Trevor ASTLEY	M.A(日本語)
招聘講師		Ben Opray	M.A(国際関係)
招聘講師		Richard Donovan	M.A(英語教授法)
招聘講師		Shannon Brown	M.A(英語教育)
招聘講師		Jeremy Harman	M.A(英語教育)
ランゲージチューター		Michael Gronert	
ランゲージチューター		Joshua Wilson	
ランゲージチューター		Rebecca Brinkley	
ランゲージチューター		Claudia Bracco	
ランゲージチューター		Sam Haldeman	
助手		服部 ひとみ	
助手		犬飼 良子	
助手		倉元 香奈子	
助手		木村 真梨子	

英語教育学科

職位	役職	氏名	学位
教授	英語教育学科長・ 教職センター長	須賀 藤隆	教育学修士
教授		菊地 俊一	博士(学術)
教授		佐藤 一嘉	Ph.D.(応用言語学)
教授		佐々 輝夫	
教授		水谷 忠資	
教授		大河 まさ子	
准教授		Paul A. CRANE	M.A.(英語教育)
准教授		Mathew S. WHITE	M.A.(英語教育)
助手		木村 真理子	

フランス語学科

職位	役職	氏名	学位
教授	フランス語学科長	熊沢 一衛	文学修士
教授		中村 マリ・ポール	修士(法学)
教授		稲垣 昭	文学修士
准教授		小山 美沙子	文学博士
准教授		大岩 昌子	学術博士
准教授		伊藤 達也	Ph.D.(言語科学)
准教授		L. ANNEQUIN	修士(第二言語習得研究)
招聘講師		Yannick Deplaedt	修士(フランス文学)
ランゲージチューター		Fabrice Levallois	
助手		伊藤 友香	

中国語学科

職位	役職	氏名	資格・学位等
教授	中国語学科長	中井 政喜	博士(文学)
教授		兪 曉軍	博士(人間科学)
教授		黄 媛玲	文学修士
教授		三枝 茂人	文学修士
准教授		西川 真子	文学修士
准教授		船越 達志	博士(文学)
准教授		劉 綺紋	博士(言語文化学)
招聘講師		余 求真	文学修士
助手		安江 奈緒	

日本語学科

職位	役職	氏名	学位
教授	日本語学科長	中道 真木男	文学修士
教授	学生部長	蔵田 敏明	文学修士
教授		水田 澄子	学術博士
教授	国際交流部長	尾崎 明人	Ph.D.(日本語学)
教授		田中 真理	博士(学術)
教授		高士 京子	Ph.D.(言語学)
講師		阿部 新	博士(学術)
招聘講師		Claire Schadler	M.A.(英語教育)
ランゲージチューター		Matthew Lott	
助手		清水 磨美	修士(日本語・日本語教育)
助手	(大学院)	佐久間 永子	修士(日本語教育)

総合教養

職位	役職	氏名	学位
教授	総合教養主任	石田 勢津子	博士(教育心理学)
教授		松村 保寿	文学修士
教授		大矢 芳彦	理学修士
教授		鵜飼 尚代	文学修士
教授		黒田 十三	体育学修士
教授		真田 郷史	文学修士
教授	保健管理センター副センター長	加藤 潤	教育学修士
教授		藤原 善行	
准教授		山田 敬信	政治学修士
准教授		阪上 眞千子	博士(法学)
准教授		若山 公威	修士(工学)
講師		松本 純子	文学修士
助手		野村 陽子	

現代英語学科

職位	役職	氏名	学位
教授	学部長・学科長	玉井 俊紀	文学修士
教授		奥田 隆男	経済学修士
教授		高瀬 淳一	政治学修士
教授		濱嶋 聡	文学修士
教授		目黒 博	M.A.(言語学)

教授		佐原 秋生	
教授		金沢 和子	
教授		原田 邦彦	M.A.(英語教授法)
准教授		デュエイン・キント	Ph.D.(応用言語学)
准教授		マイケル・チョレウ インスキー	Ph.D.(応用言語学)
准教授		浅野 輝子	
准教授		鶴本 花織	Ph.D.(社会学)
講師		宮川 公平	修士(国際学)
講師		室 淳子	博士(言語文化学)
招聘講師		Kurosh Shadmand	M.A.(文学)
招聘講師		Dean Gascoigne	
招聘講師		Troy Miller	M.A.(E.L.T)
招聘講師		Michael Kelland	M.A(外国語教授法) M.A.(応用言語学)

国際ビジネス学科

職位	役職	氏名	学位
教授	学科長	権 泰殷	経営学博士
教授		稲福 善男	経済学博士
教授	教務主任	井戸 一元	博士(経営学)
教授	メディア情報教育センター長	水野 積成	工学博士
教授	英語教育担当主任	木村 友保	M.A.(応用言語学)
教授	副図書館長	塩見 治人	経済学博士
教授		岡本 純	M.B.A.
教授		林 慶雲	M.B.A.
教授		阿部 彰彦	

現代国際学部

職位	役職	氏名	学位
ランゲージチューター		Staci-Anne Ali	
ランゲージチューター		Joseph Wood	
ランゲージチューター		Emily Millar	
ランゲージチューター		William Gordon	
助手		武井 由紀	博士(言語学)

留学生別科

職位	役職	氏名	学位
教授	日本語教育センター長	D. K. WILKERSON	Ph.D.(東亜言語文学)
講師		徳本 浩子	M.A.(比較文学)
講師		村上 かおり	博士(日本語学・日本語教育学)

③ 学生に関する情報

<入学者数、収容定員、在学者数、卒業生数、進学者数>

2010年5月1日現在

学部・研究科	学科・専攻課程	入学者数	収容定員	在学者数	卒業生数	進学者数	
国際コミュニケーション研究科	国際コミュニケーション専攻	博士前期	21	40	53	21	4
		博士後期	5	15	12	6	2
	計	26	55	65	27	6	
外国語学部	英米語学科	369	1,220	1,494	379	4	
	英語教育学科	50	120	137	-	-	
	フランス語学科	69	220	295	59	3	
	中国語学科	68	220	279	65	0	
	日本語学科	66	220	297	77	5	
	計	622	2,000	2,502	580	12	
国際経営学部	国際経営学科	0	0	1	0	0	
現代国際学部	国際ビジネス学科	96	300	608	92	1	
	現代英語学科	148	480	406	140	1	
	計	244	780	1,014	232	2	
日本語教育センター（留学生別科）		-	40	88	-	-	
合計		892	2,875	3,670	839	20	

- 1) 英語教育学科は学年進行中
- 2) 国際経営学部は、2004年度募集停止
- 3) 進学者数は大学院進学者（大学院後期課程は大学院研究生）数を記載

<入学に関する基本的な方針>

大学

(本学が求める入学生像)

言葉は、人と人が情報や気持ちを伝え合うための大切な道具である。また、言葉は、自分を表現し、人と人を結びつけ、新しい何かを発見させてくれるとともに、人を社会に参加させてくれる働きをもっている。こうした言葉を学ぶということは、私たちの生活や社会を豊かにしていくのに必要な大きな鍵を手に入れることである。

本学が求める入学者像は次のとおりである。

- ・言葉（外国語・日本語）への強い関心を有する者
- ・言葉を通して人への関心を有する者
- ・国際社会への高い関心を有する者
- ・行動力を持って、実際に、人や国際社会に触れ、自分自身を高めていく意欲を有する者

（入試方針）

外国語学部英米語学科・英語教育学科、現代国際学部現代英語学科・国際ビジネス学科では、英語を主専攻としており、外国語学部フランス語学科・中国語学科・日本語学科においては英語を副専攻語と位置づけている。入学者の判定においては、英語を主専攻としている学科はもとより、副専攻語としている学科においても、英語力の評価は重要であり、「英語」は全ての入学試験において必修科目となっている。さらに、外国語を学習するうえでその基礎となる国語力は欠かせないものであり、また、外国語の習得を深化させていくためには、幅広い分野についての基礎学力も大変重要である。

従って、各学科においては、専攻する言語は異なるものの、全学共通の入学試験を採用しており、英語の能力が高い者を選抜することを重視しつつも、他の教科の基礎学力についても充分配慮した入学者選抜を実施している。

大学院

本学の教育方針「人間教育」と「実学」に立ち、国際コミュニケーション研究科では、言語を中心にすえて、国際理解に必要な知識・技能を総合的に研究・教授する機関として、研究者養成とともに、特に現代国際社会で活躍する高度な専門知識を持った職業人の育成を目的としている。

よって、本研究科では、外国語や日本語が駆使できるだけでなく、教育や研究の指導的立場に立てる、世界を相手に活躍できる人材育成のために、専門分野の基礎的な知識とともに、広い視野に立った研究能力・意欲を持ち、研究者、高度専門職業人を目指すなど、目標意識を持つ人、研究を通し、国際社会に貢献できる人を求めている。

入学者選抜は、書類審査、面接、筆記試験により多角的に審査し、選考を行う、

< 卒業者数及び卒業後の進路 >

2010 年度卒業者

卒業後の進路状況（単位：人）

就職者	進学等			海外留 学等	一時的 な仕事等	その 他
	大学院	編入 再入学	専門学校 等			
552	12	2	11	9	32	129

計 747

就職者の産業分類別状況（単位：人）

建設業	製造業	電気・ ガス・水道	情報通信	運輸 郵便	卸売 小売	金融 保険	不動産 リース	宿泊・飲食 サービス	
25	65	0	23	57	138	37	3	24	
生活関連 サービス	学校 教育	教育支援	医療・福祉	複 合 サ ービス	その他の サービス	公務	その他		
81	27	29	14	14	9	6	0		計 552

就職決定率 94.2%

④ 教育課程に関する情報

外国語学部

外国語学部の教育理念は、本学の理念・目標に照らし合わせ、各専攻語学の教育を通じてそれぞれの言語圏における文化、社会システム、政治経済などに関し、理論的知識を修得し、外国語運用能力を世界を舞台として活躍できるレベルまで高めることであり、学部全体として複数言語圏の教育・研究と実質的な国際交流の行われる環境を通じて育まれる他言語・文化への共感能力を基礎に持つ国際感覚を身につけた人材の輩出である。

各学科の専門科目の教育課程は、専攻語学を中心に、専攻文化、専門ゼミナール（英語教育学科では、専攻語学及び専攻研究）に重点をおいたものとなっており、「高度な語学力を養成するための科目」と「その国の文化を深く理解するための科目」の2つに体系化されている。専攻語学では、「Power-up Tutorial (PUT)」「Advanced PUT」という徹底した少人数教育や、「会話・作文」等の授業では、3段階レベルの習熟度別クラス編成により、学生の能力にあった指導環境を整えている。

更に、2008年度から、学生の学力及び学習目標の多様化に対応するため、所属する学科の学びをより深く探求できるように、分野ごとに専門科目をまとめた「コース科目」と専門分野の理解を深め、見識を広げるために他学科の専門科目を分野ごとにまとめた「他学科提供プログラム科目」を配置し、学生の履修選択の幅を広げている。

現代国際学部

現代国際学部では、本学の理念・目的に照らし合わせ、「グローバル時代の社会人として通用する言語能力の獲得」、「学生が興味を示し、卒業後進むであろう分野に関する各種専門科目の提供」、並びに「社会人としてふさわしい国際教養の涵養」の3つを目的として、それぞれ適切な方法で教育課程が組み立てられている。

現代英語学科、国際ビジネス学科の両学科共通の教育課程を置き、「基本的な英語能力を養成するための科目」として、I E Pの諸科目、Power-up! Tutorial、Reading for

Understanding、Writing and Presentation、Discussion and Debate、Oral Communication Strategies、TOEIC/TOEFLE Introductory、ESP(English for Special purposes)の専攻語学〔英語〕科目を配置している。

「国際教養の考え方を身につける科目」として、全学体制の共通科目、エリア・スタディーズ、エリア・ランゲージズ、研究基礎トレーニング、現代国際特殊講義A（現代社会の様々な職業分野で実際に仕事をしている職業人を講師に招くオムニバス講義）、教養・文化セミナー（オペラ、歌舞伎鑑賞）等の科目を配置している。

また、「英語を活用するいくつかの職業分野と深く結びついた科目」として、現代英語学科では、専門科目の英語応用科目（ジャーナリズム・メディア、観光・ホスピタリティ、国際交流・ボランティア、通訳・翻訳、児童英語の5つの分野に関わる科目）を多数開講している。一方国際ビジネス学科では、専門科目の国際ビジネス科目（マネージメント、マーケティング、ファイナンス、アカウントिंगの4系列）のカリキュラム群が配置されている。

なお、現代国際学部においては、社会的要請や学生のニーズに応えるため、学科の編成やカリキュラムを見直し、新しい学科の創設をも念頭に入れた改革について検討するため、2010年度に学部再編委員会が設置された。2012年度を目途に検討が進められている。

大学院国際コミュニケーション研究科

本研究科は、研究者養成と共に特に現代国際社会で活躍する高度な専門知識を持った職業人の育成を目的としている。専攻は「国際コミュニケーション専攻」一つとし、外国語学部及び現代国際学部の両者に共通の大学院としてグローバルゼーションが急速に進む世界の現状に対応している。

博士前期課程は、研究志向を明確にするため8コースを設置しているが、カリキュラムは、英語、フランス語、中国語、日本語を中心に国際関係、国際ビジネス、言語情報、英語教育と広範な分野に跨っており、2学部7学科の横断的、総合的、学際的展望を重視して自由な履修を可能にしている。

2008年度に施行した社会人を対象とする長期履修制度を2009年度から英語教授法(TESOL)コースを履修する学生にも適用し、社会人学生の修学に便宜を図っている。

博士後期課程では、前期課程の基礎の上に立って「英語学・英語教育学」、「日本語学・日本語教育学」及び「国際文化」の3分野にわたり専門性の高いカリキュラムと研究指導体制を整備している。授業科目として3分野にわたりそれぞれ特殊講義を配置し、研究指導にあたっては、本研究科の特色である総合性、学際性をそこなわないように配慮しつつ、前期課程で培われた幅広い視野と知識を基盤に特定の分野についてさらに深い専門的研究能力を涵養し、実社会で実践できる高度な専門的職業人、教育者或いは研究者の養成を目指している。これまでに課程博士6名、論文博士2名を輩出している。

⑤ 学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっての基準に関する情報

<学修の成果に係る評価>

大学院設置基準、大学設置基準等に則し、適切な方法により学修の成果を評価している。

大学院の授業科目の成績は、A、B、Cをそれぞれ合格とし、Dを不合格、Sを認定として評価する。

学部の成績は、A+ (100～90点)、A (89～80点)、B (79～70点)、C (69～60点)をそれぞれ合格とし、D (59点以下)を不合格として評価する。このほか、E (試験欠席)、F (失格)、S (認定)、W (放棄)で評価する。

留学生別科の成績は、A+ (100～90点)、A (89～80点)、B (79～70点)、C (69～60点)をそれぞれ合格とし、D (59点以下)を不合格として評価する。このほか、S (認定)、W (辞退)で評価する。

<卒業の認定に当たっての基準>

学部・研究科名	学科・課程名	修業年限	必要修得単位数	科目区分ごとの修得単位数		取得可能な学位及び専攻
				選択	自由	
国際コミュニケーション研究科	博士課程 (前期)					
	英語コミュニケーションコース	2	30	総合研究科目 4 外国語科目 8～12 専門教育科目 10～18		修士(英語・英語教育)
	日本語コミュニケーションコース	2	30	総合研究科目 4 外国語科目 4～8 専門教育科目 18～22		修士(日本語・日本語教育)
	フランス語コミュニケーションコース	2	30	総合研究科目 4 外国語科目 8～12 専門教育科目 10～18		修士(フランス語・フランス語教育)
	中国語コミュニケーションコース	2	30	総合研究科目 4 外国語科目 8～12 専門教育科目 10～18		修士(中国語・中国語教育)
	国際関係コース	2	30	総合研究科目 4 外国語科目 8～12 専門教育科目 10～18		修士(国際関係)
	国際ビジネスコース	2	30	総合研究科目 4 外国語科目 8～12 専門教育科目 10～18		修士(国際ビジネス)
	インターネット言語教育コース	2	30	総合研究科目 4 外国語科目 4～8 専門教育科目 18～22		修士(インターネット言語教育)
	英語教授法 (TESOL)	2	30	専門教育科目:30		修士(英語・英語教育)
	博士課程 (後期)					
	英語学・英語教育分野	3	12		12	博士(英語学・英語教育学)
	日本語学・日本語教育学分野	3	12		12	博士(日本語学・日本語教育学)
	国際文化分野	3	12		12	博士(国際文化)

外国語学部	英米語学科	4	1 2 4	4 8	2 0	学士（英語）
	英語教育学科	4	1 2 4	3 4	2 4	学士（英語教育）
	フランス語学科	4	1 2 4	4 8	2 0	学士（フランス語）
	中国語学科	4	1 2 4	4 8	2 0	学士（中国語）
	日本語学科	4	1 2 4	6 2	2 0	学士（日本語）
国際経営学部	国際経営学科	4	1 2 4	4 8	3 6	学士（国際経営）
現代国際学部	現代英語学科	4	1 2 4	7 8	1 6	学士（国際学）
	国際ビジネス学科	4	1 2 4	7 2	1 4	学士（国際経営）
留学生別科	日本語・日本文化プログラム	1	3 0	—	1 1	—
	名古屋現代日本プログラム	1	3 0	2 4	6	—

⑥ 学習環境に関する情報

<キャンパスの所在地>

愛知県日進市岩崎町57番地

<主な交通手段>

地下鉄東山線「上社」駅及び地下鉄鶴舞線、名鉄豊田線「赤池」駅（共同使用）の2駅から専用バスを運行している。本学までの所要時間はいずれも約15分。

<キャンパスの概要>

本学が位置する中西学園日進キャンパスには、同学園を母体とする本学と名古屋学芸大学及び同短期大学部が設置されている。日進キャンパスは、名古屋市東部丘陵地を開発して造成され、この地域には、本学をはじめ、多くの大学が群設しており、日進市の文教地域となっている。キャンパスの校地は、両大学併用であり、面積は145,611.05㎡である。

本学の校舎は、本館、1号館、2号館、3号館、K館、5号館、6号館、7号館の8棟と両大学供用の施設であるE館、中央図書館、体育館及び厚生施設としてコミュニケーションプラザ、レ・アール（学園ホール）等を有する。本学の校舎面積は、各大学の共有部分を各大学に按分した面積を含めて、34,222.85㎡である。

教室は、2・3・5・6・7号館及びK館にあり、最大398名を収容する大教室をはじめ、大、中、小の講義室が76室、情報教育室が8室、パワーアップチュートリアル授業専用教室が3室、会話の訓練専用のスピーキングラボが2室、電子耳専用教室1室、語学

の勉強のためのランゲージトレーニングセンター1室がある。更に学芸大学と共用のE館には、同時通訳室、AVホールのほか、メディアを使ったスキルアップ・情報収集など、学生の自学自習を支援するマルチメディアトレーニングセンターが設置されている。

また、学生の課外活動及び厚生施設としては、次に述べる運動施設のほか、7号館におしゃれな雰囲気のカフェテリア（食堂）、ラウンジ、コンビニが、コミュニケーションプラザには、書籍（丸善）、喫茶（ユーハイム）、焼たてパン・おにぎり・弁当の店（パスコ）及び留学生、学生相互間、教職員との交流の場としての交流ホール、ランゲージラウンジが設置されている。

<運動施設の概要>

- ・第1グラウンド・・・主に野球やサッカーなどの球技系スポーツに使用される。
- ・体育館アリーナ・サブアリーナ・・・アリーナは、バスケットボールやバレーボールなどに使用されるほか、入学式、卒業式、企業研究会など大学行事にも使用される。サブアリーナは、体操やダンスなどに利用されている。
- ・第1多目的ホール・・・空手、合気道部、テコンドー部などの武道系クラブが使用するほか、卓球部、よさこいソーランサークル、ウィンドオーケストラなど幅広くクラブ・サークルに使用されている。
- ・テニスコート・・・竹の山テニスコート（2面）、南山テニスコート（4面、練習ボード半面）
- ・トレーニングルーム・・・エアロバイク等の各種トレーニング機器が自由に利用できる。
- ・第2グラウンド・・・2011年度から使用。
- ・第2多目的ホール・・・2011年度から使用。

<課外活動の状況>

- ・学生会・・・学生会は、クラブやサークルなどをまとめるとともに、新入生歓迎ウィーク、球技大会、リーダーズキャンプ、禁煙キャンペーンなど多くのイベントを企画・運営している。また、学生会新聞の発行や、ワクチン費用を募金するためのペットボトルの回収などを行っている。
- ・合同祭・・・本学は、姉妹校の名古屋学芸大学と合同で大学際（合同祭）を行っている。毎年10月の下旬（2010年度は10月29日～31日）に行われ、キャンパス内は来訪者であふれ、あちこちで学生達によるパフォーマンスが繰り広げられている。合同祭実行委員会の部員は200名に及ぶ。
- ・クラブ・サークル・・・現在大学が公認するクラブ・サークル団体は、体育系が28団体、文化系が21団体である。
- ・業界研究グループ・・・就職活動と結びつけた課外活動として、エアーライン業界研究グループ、マスコミ業界研究グループ、旅行業界研究グループがあり、それぞれ活発に

活動している。

⑦ 学生納付金に関する情報

<授業料、入学金、その他の費用について>

- ・納付期日 1期 4月1日 2期 9月16日
- ・納付金額(2010年度入学者)

学部生

区 分	1年次入学生			3年次編入学生		
	1期 円	2期 円	計 円	1期 円	2期 円	計 円
入学金	200,000		200,000	100,000		100,000
授業料	382,500	382,500	765,000	387,500	387,500	775,000
施設費	190,000	190,000	380,000	190,000	190,000	380,000
演習費	25,000	25,000	50,000	25,000	25,000	50,000

大学院生

区 分	前期課程			後期課程		
	1期 円	2期 円	計 円	1期 円	2期 円	計 円
入学金	100,000		100,000	100,000		100,000
授業料	382,500	382,500	765,000	382,500	382,500	765,000
施設費	95,000	95,000	190,000	95,000	95,000	190,000

<授業料減免制度の概要>

- ・減免対象の種類、要件

授業料減免制度の名称	種類	要件	採用数
緊急経済支援(授業料減免)制度	各期(半期)授業料1/2を免除	平成20年9月以降、主たる家計支持者の失職・倒産等で家計が急変し、学費の納付が困難な場合	各期(半期)24名以内
激甚災害被災学生に係る学費等免除及び見舞金支給	学費(半期)の全額又は半額を免除	激甚災害の指定若しくは、指定が予測される災害により、学費負担者が被災し、学費の納付が困難な場合	

- ・必要手続等

緊急経済支援特別措置:申請書に必要書類を貼付して学生課に提出

激甚災害被災者:事由発生後1年以内に必要書類(各種証明書)を整えて学生課へ提出

⑧ 学生支援と奨学金に関する情報

<学生支援組織>

事 項	組織名	機能
就職支援	キャリア サポートセンター	・キャリアプラン、就職相談 ・就職支援及び資格支援講座、 ・インターンシップ
進学支援	大学院事務室	・大学院進学のアドバイス
履修支援	教務部教務課	・教科や単位履修の指導 ・成績管理及び各種証明書の発行 ・授業や試験に関すること ・休学・退学など学籍に関すること
生活支援	学生部学生課	・学生証、学割、通学証明書の発行 ・クラブや大学祭等の課外活動支援
経済支援	学生部学生課	・奨学金に関する事務や説明会の開催 ・授業料の延納
保健・衛生・ メンタルヘル ス等	保健管理センター	・健康診断 ・病気や怪我の対応 ・心身の相談 ・学生生活に関する相談
学習支援	メディア情報教育センター TOEFL・TOEIC 支援室	・パソコン教室の管理 ・個人ユーザー認証（パスワード）管理 ・TOEFL・TOEIC の IP 試験の実施 ・TOEFL・TOEIC 支援講座の開設とスコ アアップのためのカウンセリング

<奨学金>

種類	要件	申込方法	採用数
日本学生支援機 奨学金	日本学生支援機構野定める 申請条件による	日本学生支援機構の 定める手続きにより 学生課を通じて申請 を行う	1,401名
中西学園奨学金	家計支持者の死亡、生別、失職、 傷病、災害等により家計が急変し 学費の納付が困難で、かつ、修学 を継続させることが望ましいと認 められる学生	学納金納付指定日より 1ヶ月以内。ただ し、選考委員会が認 めた場合はこの限り ではない	0名

名古屋外国語大学 外国語学部同窓会	本学外国語学部に1年以上在学しており、学業、人物ともに優秀で本学外国語学部生としてふさわしい学生	申請書に証明書を添付して学生課または同窓会事務室に提出	3名
名古屋外国語大学 現代国際学部 同窓会	本学現代国際学部に在学し、学業や文化、スポーツなど学ぶことを目的とし、その活動を行うにあたって経済的に国難な学生	申請書に証明書を付して同窓会事務室に提出	1名
名古屋外国語大学 成績優学生奨学金	学力優秀かつ品行方正な学生	各学科・各学年の優 成績学生	21名
名古屋外国語大学 課外活動・社会貢 献活動等における 優秀学生奨学金	課外活動・社会貢献活動等において著しく優秀な実績を残した学生		1名

(3) 管理運営の概要

[ガバナンス]

本学における各種意思決定等に係る関係委員会として、大学運営に関する重要事項については、評議会がその役割を担っており、学則を始めとする規程等の制定、改正、廃止等、また、制度の運用に係る決定、教員人事の承認等を行っている。また、教学事項のうち教務事項については、教務委員会で審議され、必要な内容については、さらに学部運営委員会で調整を諮ったうえ教授会で審議決定される。教学事項のうち、厚生補導に関する事項は、学生厚生委員会が当っており、本学の本旨でもある留学に関する事項等国際交流に関する事項については、国際交流委員会が審議決定を行い、そのうち重要事項については、評議会に諮ることとしている。

なお、評議会に諮った事項については、基本的に全て教授会に報告されることとなっており、そのことにより構成員への周知が計られている。

また、上記評議会に諮る事項については、学長、副学長、学部長、研究科長、教務部長、学生部長、国際交流部長、図書館長で構成される部館科長会議で、事前(評議会開催の1週間前)に議題の整理・調整を行っている。

基本的には、上記のような意思決定方法により運営されているが、その他、学長、副学長以下大学幹部と法人からの出席により、学長の(非公式な)諮問機関として大学戦略会議が組織されており、大学全体の戦略的な企画等が議論され、そこでの検討結果に基づき、部館科長会議、評議会、教授会等で承認を得て実施する事項もある。

[自己点検・評価]

本学は、2008年度に行った自己点検・評価を報告書としてまとめ、2009年度に財団法人大学基準協会の大学評価（認証評価）を受け、同協会の定める大学基準に適合していると認定された。認定の期間は、2010年4月1日から2017年3月31日までである。本学では、その後も全学の委員会である自己点検・評価委員会の下に設置された自己点検・評価委員会プロジェクトチームによる自己点検・評価を実施し、2010年度は主に教育課程、教育内容に関して、PDCAサイクルによる点検・評価を行った。

[情報公開]

・財務公開

私立学校法第47条に基づき、5月開催の学園理事会・評議員会において承認された財産目録、貸借対照表、収支計算書、事業報告書、監査報告書を翌日から法人事務局に備え付け、閲覧に供している。また、本学のホームページにおいて、上記書類の主要項目について内容を公開している。

・情報公開請求への対応

本学では、関係省庁や研究機関等からの資料請求は勿論のこと、マスコミからの資料請求、また、教職員、学生、保護者及び卒業生等大学関係者からの情報公開請求に関しても出来る限り情報公開に応じている。ただし、個人情報に関わるものに関しては、「本学個人情報保護に関する規程」に基づき、その情報の開示に関し慎重に取り扱っている。

・点検・評価結果の発信

2009年度に大学基準協会を受けた際の「自己点検・評価報告書」及び「認証評価結果報告書」を本学ホームページに掲載し、公開している。

[施設設備整備]

2010年度には、次の施設設備の整備を行った。

- ・ 少人数教育（主に専攻語学の購読の授業のクラスを40名から20名にする）を実施するため、4教室を増設した。なお、2011年度には更に9教室を増設するため、新たに建物を新設する計画である。
- ・ 学生の課外活動施設として、第2多目的ホール（ミニ体育館）及び第2グラウンドを新設した。
- ・ 学生ホール（ホワイエ）にコンビニエンスストアを設置した。
- ・ 身障者のためのスロープを整備した。

(4) 上記（「1」）～（「3」）以外の特徴ある取組の概要

① 教育力向上の取り組みの概要

<学生による授業評価>

F D委員会の下に設置されたプロジェクトチームを編成し、学生による授業評価（本学では「授業改善のためのアンケート調査」と呼んでいる）を大学全体として2004年度から毎年実施している。実施結果については、学生からの要望、意見も含め各授業担当教員にフィードバックし、個々に授業改善に役立てている。なお、実施結果の公表については、全体の結果とその分析について本学ホームページで公開している。

<TOEFL・TOIEC 支援>

本学では、TOEFL・TOIEC 支援室を設置し、全学生を対象に、「TOEFL 対策講座」と「TOIEC 対策講座」を毎学期に開講している。受講料は大学が全学負担している。更に TOIEC (IP) 試験を年に3回実施しており、学生は卒業までに12回無料で受験することが可能である。なお、TOEFL・TOIEC 支援室では、試験対策の学習法や教材などの相談・アドバイスをを行い、確実に成果を上げるための指導も実施している。

<ブラッシュアップイングリッシュ>

本学では、正規の授業とは別に1年次生全員を対象に、1クラス20人前後の少人数でブラッシュアップイングリッシュを開講している。英語を学習するうえで、まず身につけておきたい「読解力」と、それを支える「文法力」に重点を置き強化を図っている。また、授業だけでなく、学生一人ひとりに対するカウンセリングや授業後のアンケートを実施し、効果的な学習法の確立を目指している。

<Web ポータル情報システム>

学生への学習支援の一環として、学内にポータルシステムを導入し、授業や学生生活に関する諸連絡伝達の効率化を図っている。これにより学生はWebによる成績照会や休講情報などの効率的な情報収集が可能になった。

② 国際交流の概要

<新留学制度について>

2010年12月に本学の留学制度について大幅な改正が行われた。具体的には①交換留学Aおよびダブルディグリー留学を「留学費用全額支援制度」の対象として奨学支援を厚くしたこと、②交換留学（一般）を交換留学Bとして奨学金を増額したこと、③各種採用枠を撤廃し、一定の基準を超えれば人数制限なく採用されるようにしたこと、④UCR特別留学という新たな制度を創設したこと、⑤留学について在学期間中2年間まで複数参加が可能となるよう規制緩和がされたこと、⑥採用基準のうち成績と語学についてそれぞれ明確な基準を設けたこと、である。

これらの改正について正式には2011年度募集、2012年度派遣の学生から適用であるが、2011年度に留学する（している）学生に対しても以下の暫定措置が講じられた。

(1) 2010年度2期出発で1年間留学している学生について、留学後半に当たる2011年度1期分を対象に、新留学制度の基準に合致した学生に対して留学種別の異動を行い奨学金の増額を行った（交換A11名、交換B5名）

- (2) 2011年度出発として既に採用されていた海外留学候補生に対して、新留学制度の基準に合致した学生に対して留学種別の異動を行い奨学金の増額を行った（新ダブルディグリー留学1名、交換A43名、交換B30名）
- (3) 2011年度2期出発の新留学制度による追加募集を行い、応募があった中から基準に合致した学生を採用した（新ダブルディグリー留学1名、交換A5名、交換B3名）
- (4) UCR特別留学プログラムについて正式な留学制度として確立したのは2011年度であるが、暫定措置として2010年度に認定留学の枠を利用し、募集・選考を行い11名追加採用した。

<派遣業務>

長期留学の実績として、1期出発59名（交換特待11、交換一般27、認定21）、2期出発70名（交換特待16、交換一般48、認定6）、合計129名の学生を派遣した。中期留学（現代国際学部）の実績は15名の派遣、海外研修（学外実習を含む）は15グループ354名の学生を派遣した。前年と比べ、長期留学は7名減、中期留学は5名増、海外研修は59名増となった。

<留学生受入れ>

留学生受入数としては、2010年12月15日時点で短期（交換）留学生在が109人、正規学部・大学院留学生在が30名、研究生が9名、合計148名が在籍していた。国別で見れば、多い順に中国、アメリカ、英国、オーストラリア、フランス、韓国、カナダ、（以下続く）となっている。留学生在の在籍者数は前年度同時期より18名増、国籍別出身者数のデータは目立った変化はなし。

<留学生と在在学生との交流>

従来から昼休みに実施しているランゲージラウンジ（英語、仏語、中国語、日本語、韓国語、スペイン語）、異文化交流パーティー、七夕パーティー、クリスマス会、海外留学ネットワークパーティーなど目的別に多彩な交流の機会を提供できた。

<地域の国際交流>

地域住民と本学に在籍する留学生在が交流する機会を持ってもらうため、「地域交流会」を春と秋の2回実施した。130名近い参加者が文化交流とイベントを通して親睦を深めた。その他日進市や長久手町の企画する交流関連の行事（例：祭りや週末ホームステイ）に留学生在が積極的に参加した。

<その他>

国際交流部の活動としてTOEFL (ITP) 試験の実施（年間4回）、英語圏への留学候補者対象の留学準備コースの実施（年2回）、留学生宿舎のレジデンスアシスタント関連業務などを行った。

③ 社会貢献・連携活動の概要

<英語教員ワークショップの開催>

本学では、愛知、岐阜、三重、静岡4県下の中学校及び高等学校の現職英語教員を対象とした実践的な指導方法、指導能力の向上と英語能力のスキルアップを目的に2001年度から「英語教員ワークショップ」を開催しており、参加数は、年々増加している。

2010年度は年間で延べ300名の教員が参加した。

<地域交流>

本学では、留学生との交流は本学在學生に限らず、地域住民とも積極的に行っている。本学の所在地である日進市と隣町の長久手町の市役所及び国際交流協会が企画するお祭りやイベント、週末ホームステイ、小・中学校での生徒との交流に本学留学生が参加している。また、英語教育学科では、教育課程の中に英語教育インターンシップを取り入れており、主に地域の小、中、高等学校で実施している。今後、小学校での英語教育が本格的に実施されれば、近隣の小学校からの要請が増大することが予測される。

更に、2009年度には、日進市と本学及び名古屋学芸大学との協定が調印され、今後同市と両大学との地域交流を幅広い分野で相互に連携協力し本格的に進めることになっている。

④ 学生の課外活動に対する支援

本学は、教育・研究だけではなく、学生の課外活動に対する支援にも力を入れている。知識の吸収だけではなく、社会への適応、社会性を身に付けた人間の養成（人間力の養成）も大切であり、それらは課外活動の中で培われるものと考えている。

現在、大学公認のクラブ・サークルは49団体あり、1678人の学生が参加しており、これは、全学生のうち50.6%の学生がクラブ・サークルに所属していることとなる。これらの課外活動で優秀な成績を挙げた個人・団体には、学生部長表彰を行っている。

また、特定の業界への就職を目指す学生が集まり、勉強会・講演会・OB/OG交流会、見学会などを実施している業界研究グループが3団体（エアライン・マスコミ・旅行）あり、活発に活動を行っている。

大学の一大行事である大学祭は、姉妹校である名古屋学芸大学との合同祭として実施しており、大学祭実行委員会メンバーは、150名を超える。2010年度は、第15回合同祭として10月29日～31日に行われた。

学生会活動も活発に行われており、新入生歓迎の各種行事のほか、NAFS NEWS PAPER（学生会新聞）やキャンパスガイドブックの発行、年2回のリーダーズキャンプの開催等の行事を精力的に行っている。

本学では、これらの課外活動に対し、クラブ費や学外合宿に係る経費の一部負担など経済的な援助のほか、サークル室、多目的ホール、多目的グラウンドの拡充整備など施設面での充実も進めている。

2 名古屋学芸大学

(1) 建学の理念・教育目標

本学は、「人間教育と実学」という建学の精神に基づき、人間を対象として「人と心」をテーマに、人間のために「知と美と創造」していくことを基本理念に定めている。本学は、「管理栄養学部」、「メディア造形学部」、「ヒューマンケア学部」と分野は分かれているが、我々を取り巻く環境、日常を「食」、「心身」、「創造・表現・造形」の3つの角度からアプローチし、人間生活に起こりうる事象・課題について、本当の豊かさとは何か、自然環境と共存し新しい文化や社会を構築するために何が必要なのかなどを倫理的判断と強い責任感を持って探求・創造できる有為な人材を養成することにある。

【大学院栄養科学研究科】

① 博士前期課程

健康科学、生体科学、食物科学等における知識を基礎として、人間栄養学、臨床栄養学等を中心とした栄養科学分野に関する知識を有し、「食と医療と健康」に関わる総合的見識を保持した栄養分野の研究者・教育者並びに専門的職業人養成を目指す。

② 博士後期課程

栄養科学の実践を重んじ、先端的かつ国際レベルの教育研究が遂行でき、栄養科学における高度な専門知識と技能を備えた栄養科学領域の研究者・教育者並びに栄養分野の専門的職業人に対する指導者たるべき人材の育成を目指す。

【大学院メディア造形研究科】

① 修士課程

創造・開発を担う人材として、国際的な視野に立ち、社会や時代の動向を掴む創造力・洞察力、適格な施策を立案する企画力、そしてプロジェクトを強く展開する推進力・調整力を併せ持つ人材の育成を目指す。と同時に、クリエイターという専門職業人の中でも主とする分野を持ちながらも、他分野への造詣も深く理解し、単に創造・開発活動だけを担当するに留まらず、プロジェクトの施策を立案、展開、提案を纏め上げていく、リーダーシップのあるオーガナイザーとしての能力を有した人材の育成を目指す。

【管理栄養学部】

① 管理栄養学科

栄養学の実践に必要な知識・技術・態度を修得するために、食と健康に関わる様々な分野について総合的に学習し、疾病予防、健康増進、生命の延長及び生活の質の向上に寄与できる管理栄養士の養成を目指す。

【メディア造形学部】

① 映像メディア学科

写真、映画・ビデオ、CG、テレビ、サウンド、インスタレーションなど広範囲な映像メディアの世界を原点より理解したうえで、専門性を生かした積極的な自己表現ができる人材の養成を目指す。

② デザイン学科

「人と情報・メディア」、「人とモノ」、「人と技術」、「人と環境」の関係の中心に、教育理念である「人と心」をすえ、視覚伝達、立体空間(環境空間、プロダクト)、学究・デザインビジネスなどの広範なデザインの分野を全体として理解したうえで、特にいずれかの分野に熟達した人材の養成を目指す。

③ ファッション造形学科

ファッションデザイン、ファッションビジネス、バッグ、靴などのファッショングッズを含めて、服にとどまらない広範なファッション製品製作及び流通を理解し、世界のアパレル業界で活躍できる人材の養成を目指す。

【ヒューマンケア学部】

0歳から18歳までの「子ども」の健全な成長・発達及び社会化を支援するために必要な能力と、保育・教育学、保健医学、栄養学、看護学、養護学、心理学、社会福祉学の諸領域の専門知識を持ち、養護及び保育・教育活動をはじめ、人間愛に満ちた子どもの生活環境づくり等、広く子どもケアの実践活動が行える人材の養成を目指す。

① 子どもケア学科子どもケア専攻

子どもケア専攻は、小・中・高等学校及び特別支援学校の養護教諭、保健担当教諭として子ども達の心身をトータルにケアできる「保健室の先生」の育成を目指す。

② 子どもケア学科幼児保育専攻

幼児保育専攻は、高い専門知識、技能を身に付けた保育士、幼稚園教諭として、医療、心理の領域も取得した保育現場のリーダーを目指す人材を育成する。

(2) 教育・研究の概要

① 教育研究上の基本となる組織に関する情報

学部・研究科名	学科・課程名
栄養科学研究科	博士課程(前期)
	博士課程(後期)
管理栄養学部	管理栄養学科
メディア造形研究科	修士課程
メディア造形学部	映像メディア学科
	デザイン学科
	ファッション造形学科

ヒューマンケア学部	子どもケア学科 子どもケア専攻
	子どもケア学科 幼児保育専攻

② 教員組織及び教員数並びに教員の保有学位、業績に関する情報

【教員組織及び教員数】

本学は、適切な教育課程を確保し運営するため、大学設置基準上の教員数を前提として、学内において助手を含む専任教員の定員定数を定め、計画的に配置している。教員組織及び教員数は別紙資料1のとおりである。

【教員の保有学位または職務上の実績等】

学長

職名	氏名	資格・学位記等
学長	井形昭弘	医師・医学博士

管理栄養学部 管理栄養学科(大学院栄養科学研究科)

職名	氏名	資格・学位記等
学部長・研究科長・教授(兼大学院)	山中克己	医師・医学博士
学科長・教授(兼大学院)	田村 明	薬剤師・薬学博士
教授(大学院)	足立己幸	管理栄養士・保健学博士
教授(兼大学院)	池田彩子	博士(農学)
教授(兼大学院)	和泉秀彦	博士(農学)
教授【教養教育委員長】	大島龍彦	博士(文学)
教授(兼大学院)	岸 恭一	医師・医学博士
教授(兼大学院)	北川元二	医師・医学博士
教授(大学院)	末松弘行	医師・医学博士
教授(兼大学院)	須崎 尚	博士(医学)
教授	正 美智子	
教授(兼大学院)	徳留裕子	管理栄養士・博士(医学)
教授	松本高志	文学修士
准教授(兼大学院)	岸本 満	博士(農学)
准教授(兼大学院)	塚原丘美	管理栄養士・博士(医学)

准教授	服部健治	管理栄養士
講師	岡田希和子	管理栄養士・博士(医学)
講師(兼大学院)	西尾素子	管理栄養士・博士(栄養学)
講師	野村幸子	管理栄養士
講師(兼大学院)	藤木理代	管理栄養士・博士(医学)
講師	山内恵子	管理栄養士・修士(体育)
助教(兼大学院)	立花詠子	管理栄養士・博士(食品栄養科学)
助教(兼大学院)	日暮陽子	博士(医学)
助教(兼大学院)	早戸亮太郎	博士(情報工学)
助教(兼大学院)	間崎 剛	博士(農学)
助教(兼大学院)	山田千佳子	博士(健康科学)
助手	浅野奈々	管理栄養士
助手	内田友乃	管理栄養士・修士(生活科学)
助手	石黒真理子	管理栄養士・修士(栄養学)
助手	石黒裕子	管理栄養士
助手	小島千明	管理栄養士
助手	神谷友美	管理栄養士
助手	角谷亜矢	管理栄養士
助手	田内裕美	管理栄養士
助手	鳥羽美香	管理栄養士
助手	野村 早	管理栄養士
助手	若林利佳	管理栄養士

メディア造形学部 映像メディア学科(大学院メディア造形研究科)

職名	氏名	資格・学位記等
副学部長・教授(兼大学院)	西宮正明	
教授(兼大学院)	安達洋次郎	
教授	稲垣敏彦	

教授	折笠和文	経済学修士・商学修士
教授	加藤和郎	
教授(兼大学院)	瀬口雅人	
教授	瀬島久美子	
教授	仙頭武則	
教授	堀尾正典	博士(経営学)
教授	光 幸國	
教授(兼大学院)	ロベルト ダロル	
学科長・教授(兼大学院)	渡部 眞	MFA
准教授	小笠原則彰	藝術教育修士
准教授(兼大学院)	佐近田展康	文学修士
准教授	吉野まり子	MA(文学修士)
講師	森 幸長	
助教(兼大学院)	伏木 啓	MFA・修士(造形)
助教	山本努武	修士(メディア表現)
助手	柿沼岳志	
助手	小林あす美	修士(メディア造形)
助手	戸田 香	
助手	平川祐樹	修士(メディア造形)

メディア造形学部 デザイン学科(大学院メディア造形研究科)

職名	氏名	資格・学位記等
学部長・研究科長・教授(兼大学院)	木村一男	
学科長・教授(兼大学院)	河村暢夫	
学科長・教授	斎藤 彰	
教授	安藤 直	P.G.Diploma
教授(兼大学院)	岡本滋夫	
教授	加藤英明	法学修士

教授(兼大学院)	川原啓嗣	
教授	小谷恭二	
教授	平光無門	美術学修士
教授	森本 健	
准教授	黄 ロビン	芸術修士
講師	金 昌郁	美術学修士
講師	尹 成濟	修士(造形)
助教	井垣理史	修士(美術)
助手	柴田知司	修士(メディア造形)
助手	杉野直也	修士(芸術)
助手	藤巻 徹	修士(造形)
助手	谷口友帆	
助手	齊藤 綾	

メディア造形学部 ファッション造形学科(大学院メディア造形研究科)

職名	氏名	資格・学位記等
学科長・教授(兼大学院)	安藤文子	工学博士
教授(兼大学院)	内田和邦	
教授	高間由美子	修士(教育学)
教授(兼大学院)	高見俊一	
教授	ムハマド ファルク	M.A.、M.Sc.、工学博士
准教授	金森久宙	
准教授	木村佳津子	
助教	水嶋丸美	
助教	山縣亮介	修士(芸術学)
助手	方 暁緯	修士(メディア造形)
助手	吉岡麻友	
助手	鷺津かの子	修士(生活学)

ヒューマンケア学部 子どもケア学科

職名	氏名	資格・学位記等
学部長・教授	末松弘行	医師・医学博士
学科長・教授	釜賀雅史	商学修士
専攻主任(子どもケア専攻)・教授	藤井寿美子	
専攻主任(幼児保育専攻)・教授	平井タカネ	博士(医学)
教授	青木宏氏	
教授	井谷雅治	
教職課程主任・教授	小野田章二	
教授	加藤純一	
教授	河合昌和	教育学修士
教授	都築一夫	医師・医学博士
教授	戸田須恵子	Ph.D
教授	堀内久美子	教育学修士
教授	増田温美	
教授	松岡 宏	医師・医学博士
教授	三浦浩子	修士(教育学)
教授	森 奈緒美	教育学修士
教授	ミッシェル モローネ	博士(教育学)
教授	安井克彦	修士(教育学)
教授	山田敏子	
准教授	鈴木朋子	
准教授	近森けいこ	博士(学術)
准教授	林 典子	修士(教育学)
准教授	藤井正子	教育学修士
准教授	坂 鏡子	修士(福祉マネジメント)
講師	赤嶺亜紀	博士(文学)
講師	石原貴代	修士(教育学)

講師	井澤昌子	教育学修士
講師	西村美佳	博士(学術)
講師	渡辺 桜	修士(教育)
助教	林 麗子	修士(文学)
助手	大村安寿弥	
助手	寫村清美	
助手	鷹羽綾子	修士(教育学)
助手	長谷川 充	
助手	原科美佐	
助手	藤井真樹	修士(人間・環境学)
助手	山田千恵子	
助手	渡邊明宏	修士(人間文化)

又、教員の研究業績は「健康・栄養研究所年報」又は「研究紀要」に掲載している。

③学生に関する情報

【入学者数、収容定員、在学者数、卒業者数、進学者数】（2010年5月1日現在）

本学への入学者数、収容定員、在学者数、卒業者数及び進学者数は別紙資料2のとおりである。すべての学部学科において入学定員を上回る入学者を確保することができた。なお、大学院栄養科学研究科博士前期課程及び博士後期課程では入学者数が入学定員を下回った。

<入学に関する基本的な方針>

名古屋学芸大学

管理栄養学部

【管理栄養学科】

本学科の教育目的は、「栄養学の実践に必要な知識・技術・態度を修得するために、食と健康に関わる様々な分野について総合的に学習し、疾病予防、健康増進、生命の延長及び生活の質の向上に寄与できる管理栄養士の養成」です。この目的に基づき、学科では次のような学生を求めている。

- ・食と健康に関わる分野について、自ら進んで学ぼうとする勉学意欲の高い人。
- ・管理栄養士として活躍するという目的意識の高い人。
- ・コミュニケーション能力や協調性の高い人。

メディア造形学部

【映像メディア学科】

本学科は、ますます広範囲に拡大する映像メディアの世界を、総合的かつ専門的に学習することを通じて、新たなクリエイティビティの創出を目指しています。この目標に基づき、次のような学生を求めている。

- ・「見る」「聞く」「考える」そして「創る」という人間の基本的な営みを新しい文脈でとらえ、クリエイティブに未来を志向する人。
- ・映像に対する「好奇心」を常に持ち続け、「自分から学ぶ」「自分から気づく」主体性のもと積極的に行動する人。

【デザイン学科】

デザイン学科では衣食住の多角的な生活用具から情報系のコミュニケーションツール、都市計画、トランスポーターション等々と人間生活が円滑に営まれる総ての行為をサポートするところにデザインが介在している。

「人と情報・メディア」、「人とモノ」、「人と技術」、「人と環境」の関係の中心に、教育理念である「人と心」をすえ、視覚伝達、立体空間（環境空間、プロダクト）、学究・デザインビジネスなどの広範なデザインの分野を全体として理解したうえで、特にいずれかの分野に熟達した人材の養成の目的としています。この目的に基づき次のような学生を求めている。

- ・人との会話や文章による表現を通して、基本的なコミュニケーション能力有しているとともに、デザインを通して更なる表現技法の取得を目指している人。
- ・デザインに興味があり、当該する分野の技術や知識の習得を目指している人。
- ・社会の出来ごとに関心を持ち、解決する方法や技術を見つけ出そうとする好奇心が旺盛であり意欲がある人。

【ファッション造形学科】

ファッションは、人種、言語に関係なくあらゆる国の人々に感動を与えるものであると言われており、多くの国の中で、日本におけるファッション教育は世界のトップクラスに位置していることは周知のとおりである。しかし国際化に関しては今後期待されている。

本学科ではこれらの点を考慮して、基礎や個性を大切にしながらファッション関連の深い知識の修得と、今後の国際化に対応できるプロフェッショナル養成をめざしている。又、卒業後の活躍を意識し、社会人に必要な知識を身に付ける教育も心がけている。目指すところは、従来のファッション教育ではなく、時代を読むことができ、幅広い動きができる能力を備えた人材の育成である。このようなポリシーの実現に向け、人間性豊かで社会性に富んだ意欲のある学生の入学を希望する。具体的には次のような側面を重視している。

- ・ファッションに対する強い意欲と好奇心を持ち、自らの感性を豊かに表現できるようになるための努力を惜しまない人。
- ・社会と人間性の係わりをファッションの視点から捉え、それを実践するための創造性と表現力及び創作技術の習得に励む人。
- ・ファッションの知識だけでなく広範な分野にも強い興味を示し向学心が旺盛で、柔軟性に富む

人。

ヒューマンケア学部

【子どもケア学科】

学科は、保育・教育学領域をはじめとする主要 7 領域に関する専門知識を有し、0歳から 18 歳までの「子ども」の健全な成長・発達及び社会化を支援するために必要な能力を有するとともに、保育・幼児教育活動、学校保健活動をはじめ、広く子どもケアの実践活動が行える人材の養成を目指すことを教育目的に掲げている。この目的に基づき、人間性豊かな、多様な能力・適性を持ったつぎのような学生を求めている。

- ・高等学校で履修した主要教科について、基礎的レベル(教科書レベル)の知識を有している人(知識面)。
- ・多面的に物事を考察することができ、自らの考えをわかりやすく口頭並びに文章で表現できる人(思考・判断力および表現力・コミュニケーション能力)。
- ・広く子どもに関する諸問題に関心を持ち、身につけた知識・技術を社会で役立てたいという強固な意思がある人(関心・意欲および態度)。

名古屋学芸大学大学院

栄養科学研究科

【栄養科学専攻博士前期課程】

教育目的達成と栄養学分野の高度専門職業人養成目的から、次のような学生を求めている。

- ・栄養学の視点から食と健康に関わる分野について深く学びたい人
- ・探究心と自主性を持ち、協調性やコミュニケーション能力の高い人
- ・医療・福祉分野、食育分野、健康施策・食関連の行政分野、あるいは企業や国際機関などで高度専門職業人として活動しようとする人

【栄養科学専攻博士後期課程】

栄養科学領域の研究者と管理栄養士の指導者養成目的から、次のような学生を求めている。

- ・専門知識と研究能力を更に発展させ社会のリーダーシップをとろうとする意欲の高い人
- ・地域に立脚した研究ができるとともに、国際的な視野を持ち、健康科学進展のために尽くす意欲のある人

メディア造形研究科

【メディア造形専攻 修士課程】

本研究科、関わるメディア造形分野が大きく変貌をとげ、各々の領域の中で専門化が進むとともに、一方、各領域の融合、複合化へと向かう現状の中にあつて、領域を横断したプログラムと多様な講座によって、今後多彩な能力を発揮し、業界の核となりうる人材の育成を目的としており、この目的に基づき、研究科では次のような学生を求めている。

- ・自らが積極的にプロジェクトや研究に打ち込み、大いなる意欲を持って行動できる人
- ・自ら進む方向に強い信念と幅広い展望を持ち、未来に向かってポジティブな歩みが続けることが

できる人

<就職者数及び卒業後の進路>

卒業生数(修了者数)、進学者数及び就職者数等は以下のとおりである。(2010年度卒業生)

卒業後の進路状況(単位:人)

就職者	進 学 等			海外留学等	一時的な仕事等	その他	計
	大学院	編 入 再入学	専門学校等				
485	12	0	15	3	0	70	585

就職者の産業分類別状況(単位:人)

建設業	製造業	電気・ ガス・水道	情報通信	運輸 郵便	卸売 小売	金融 保険	不動産 リース	宿泊・ 飲食サー ビス
2	78	1	32	0	42	5	0	60
生活関 連サー ビス	学校教 育	教育支援	医療・福 祉	複合サ ービス	その他 のサー ビス	公務	その他	計
23	78	2	102	3	43	12	2	485

④教育課程に関する情報

教育課程は、それぞれの大学院及び学部学科のカリキュラムポリシーに則り編成しており、大学院及び各学部学科の教育課程は別紙資料3のとおりである。

⑤学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっての基準に関する情報

【学修の成果に係る評価】

適切な方法により学修の成果を評価して単位を与える。

試験の評価は、A+、A、B、C、Dをもって表わし、A+、A、B、Cを合格とする。

【卒業要件】

名古屋学芸大学

本学を卒業するためには4年以上在学し、次に定める単位を修得しなければならない。

- 一 管理栄養学部 教養科目 24 単位以上及び専門科目 88 単位以上、合計 124 単位以上
- 二 メディア造形学部 教養科目 24 単位以上及び専門科目 90 単位以上、合計 124 単位以上
- 三 ヒューマンケア学部 教養科目 24 単位以上及び専門科目 100 単位以上、合計 124 単位以上

名古屋学芸大学大学院

【栄養科学研究科】

(博士前期課程)

栄養科学領域から14単位以上、「健康科学領域」、「生体科学領域」、「食物科学領域」のうちから8単位以上及び特別研究8単位の合計30単位以上取得し、修士論文に合格すること。

(博士後期課程)

博士特別研究8単位を修得し、かつ、必要な論文指導を受けた上、本大学院が行う博士論文の審査及び最終試験に合格すること。

【メディア造形研究科】

(修士課程)

関連科目から8単位以上、実践科目から12単位以上及び特別研究10単位の合計30単位以上取得し、修士論文に合格すること。

⑥学習環境に関する情報

<キャンパスの所在地>

愛知県日進市岩崎町竹ノ山57

<主な交通手段>

地下鉄東山線「上社」駅及び地下鉄鶴舞線・名鉄豊田線「赤池」駅(共同使用)の2駅から専用バスを運行している。本学までの所要時間はいずれも15分である。アクセス図は別紙資料4のとおりである。

<キャンパスの概要>

本学が位置する中西学園日進キャンパスには、同学園を母体とする本学と名古屋学芸大学短期大学部及び名古屋外国語大学が設置されている。日進キャンパスは、名古屋市東部丘陵地を開発して造成され、この地域には、本学をはじめ、多くの大学が群設しており、日進市の文教地域となっている。キャンパスの校地は、両大学併用であり、面積は145,611.05 m²である。

本学の校舎は、本館、1号館、2号館、3号館、4号館、5号館、6号館、8号館及びメディア造形学部棟(A、B、C、D)、工房棟及びヒューマンケア学部棟(A、B)と両大学共用の施設である東館、中央図書館、体育館及び厚生施設としてコミュニケーションプラザ、レ・アール(学園ホール)等を有する。本学の校舎面積は、各大学の共有部分を各大学に按分した面積を含めて、33,112.81 m²である。

教室は、1・2・3・5・6号館及び東館にあり、最大294名を収容する大教室をはじめ、大、中、小の講義室、情報教育室、NUASホールが設置されている。又、それぞれの学部学科及び大学院には実験・実習用の教室、演習室が設置されている。更に外国語大学と共用の東館には、同時通訳室、AVホールのほか、メディアを使ったスキルアップ・情報収集など、学生の自学自習を支援するマルチメディアラーニングセンターが設置されている。

又、学生の課外活動及び厚生施設としては、次に述べる運動施設のほか、南食堂のほかコンビニ等が設置されている。加えてコミュニケーションプラザには、書籍(丸善)、喫茶(ユーハイム)、焼たてパン・おにぎり・弁当の店(パスコ)及び留学生、学生相互間、教職員との交流の場としての交流ホー

ル、ランゲージラウンジが設置されている。

<運動施設の概要>

●体育施設(併設の短期大学部及び名古屋外国語大学と共用)

- ①体育館は、面積3,550.27 m²を有し、アリーナ、サブアリーナ及び第1多目的ホール並びにトレーニングルームなどを設け、体育授業及び体育会系クラブの活動場所として使用している。
- ②第2多目的ホール(面積646.2m²)は、体育会系クラブの活動場所として使用している。
- ③NUAS ホール(面積554.68m²)は、ヒューマンケア学部及びメディア造形学部の実習室として設置されたが、体育会系クラブの活動場所としても使用している。
- ④第1グラウンドは、面積23,271 m²を有し、体育授業及び体育会系クラブの活動場所として使用している。
- ⑤第2グラウンドは、面積1,926 m²を有し、体育会系クラブの活動場所として使用している。
- ⑥竹ノ山テニスコート(2面:照明設備あり)は、体育授業及び体育会系クラブの活動場所として使用している。
- ⑦南山運動場(テニスコート4面)は、体育会系クラブの活動場所として使用している。

<課外活動の状況>

課外活動は、学生の自主性に基づき行われ、自己管理能力、自律心を養い、団体行動を通じて実社会において積極的に貢献できる人材を育成することをねらいとしている。本学では、課外活動への参加をオリエンテーションや毎春の新生歓迎ウィークなどで積極的に勧めている。課外活動団体は、運動系12 団体、文化系17 団体がある。同一キャンパスにある名古屋外国語大学の課外活動団体との連携を深め、合同で活動を行うケースや名古屋外国語大学所属の課外活動団体に参加する者もいる。両大学で学生が親睦を深め交流を図っている。課外活動団体には、本学の教員が顧問となり指導監督に当たっている。又、予算その他の重要事項については、学生課が指導助言を行い、学生厚生委員会の了承を得るものとしている。

⑦学生納付金に関する情報

<授業料、入学料、その他の費用について>

- ・納付期日 1期 4月1日、2期 9月16日
- ・納付金額(2010年度入学者)

学部学生及び大学院生の納付金額は別紙資料5のとおりである。

<授業料減免制度の概要>

・減免対象の種類、要件

授業料減免制度の名称	種 類	要 件	採用数
緊急経済支援(授業料減免)特別措置	半期授業料の1/2を免除(若干名)	平成20年9月以降、主たる家計の支持者の失職・倒産等による家計の急変により、学費の納付が困難である場合	38名
激甚災害被災学生に係る学費等免除および見舞金支給	学費(半期)の全額又は半額を減免	激甚災害の指定若しくは、指定が予測される災害により、学費負担者が被災し、学費の納付が困難である場合	なし

・必要手続等

- ・緊急経済支援特別措置:申請書に必要書類を添付して学生課へ提出
- ・激甚災害被災者:事由発生後1年以内に必要書類(各種証明書)を整えて学生課へ申請

⑧学生支援と奨学金に関する情報

<学生支援組織>

事 項	組 織 名	機 能
就職支援	キャリアサポートセンター	学部学科別に職員を配置し、きめ細かい就職支援、進学支援を行っている。又、名古屋駅近くに就活サテライトラウンジを設置し、学生の就職活動の拠点にするとともに、就職活動(試験)のための交通費支援をしている。
進学支援		
履修支援	教務課	学年別の履修ガイダンス、窓口でのきめ細かい修学支援を行っている。
生活支援	学生課	下宿等の斡旋、アルバイトの紹介等きめ細かい生活支援を行っている。
経済支援	学生課	奨学金の説明会を開催し、きめ細かい生活支援を行っている。
保健・衛生・メンタルヘルス等	保健管理センター	病気、怪我等に対応するとともに、心身の相談等、学生のメンタルヘルスを行っている。
その他	教務課、学生課 等	

<奨学金>

種 類	要 件	申 込 方 法	採用数
学校法人中西学園奨学金貸与制度	人物、学業成績が良好で入学後家計支持者の死亡、生別、失職、傷病、災害等が原因で家庭の経済事情が急変し、学納金の納付が困難となったもの	申請書に証明書を添付して学生課まで提出	1名
日本学生支援機構奨学金	日本学生支援機構の定める申請条件による	日本学生支援機構の定める手続きにより学生課を通じて申請を行う	946名
学業成績優秀者等に対する奨学制度	学力優秀かつ品行方正で他の学生の模範となるもの	各学科・各学年の最優秀成績の学生1名(管理栄養学科、子どもケア学科は2名)但し4年次後期を除く。	49名
指定資格(英語)取得者への奨学給付金	実用英語検定準一級以上(TOEFL : PBT500 点以上、TOEIC615 点以上)	申請書に証明書を添付して学生課まで提出	2名
公共団体等から表彰を受け、社会的に高い評価を受けた場合若しくは、人命救助、災害救助等に貢献した学生への奨学給付金	公共団体からの表彰若しくは、人命救助、災害救助についての感謝状等	担当教員等の推薦による	1名

(3)管理運営の概要

【ガバナンス】

本学は、大学及び大学院ともにその管理運営の基本となる「学則」の下に、大学及び大学院それぞれに種々の必要な規程を整備し、管理運営体制を構築している。学則の定めるところにより、大学及び大学院の管理運営のための上位決定機関として「評議会」を設置し、教員組織、学内諸規程の改廃、学部学科の教育研究計画方針などの重要事項を審議、決定することとしている。

又、その下部組織として大学院には研究科委員会、学部には教授会が設置され、大学院或いは学部における教育課程、卒業の要件等、学生生活など、それぞれの大学院生或いは学部生に関する重要事項を審議、決定する機関として機能している。

【自己点検・評価】

学内に「自己点検・評価委員会」を設置し、各事項に関わる自己点検・評価を行い、2009年度自己評価報告書を作成している。

【情報公開】

大学のウェブサイト(<http://www.nuas.ac.jp>)に「日本高等教育評価機構」による「機関別認証評価報告書」並びに「名古屋学芸大学短期大学部自己点検・評価報告書」を掲載している。

【施設設備整備】

2011年3月に第1駐車場の隣接地に名古屋外国語大学と共用の第2多目的ホール及び第2グラウンドが竣工し、クラブ活動の他諸行事の用に供する体制が整備された。

【その他】

特になし

(4) 上記(「1」)～(「3」)以外の特徴ある取り組みの概要

① 教育力向上の取り組みの概要

各学科の教育目的を達成させるために、教員と教務課事務職員は学生の履修登録に対して、各期の開始時に学科別履修ガイダンスを実施し、きめ細かい履修指導を行っている。そのうえで、クラスアドバイザー(担任)制を導入し、学習面を中心に学生のサポートをより充実させている。又、全ての専任教員が授業の空き時間に学生の相談を受けるオフィスアワー制度を取り入れ、組織的に学生の学習をバックアップする環境を整えている。

各学科に配置されている助手は、授業担当者と学生のパイプ役として機能し、学生の学習に関する相談を受け、学生の声を汲み上げる体制が整っている。

管理栄養学部では指定校推薦入試合格者に対して、入学前指導として化学、生物の教科に関し添削指導を実施し、さらに、1年生前期では補充授業を実施することにより、学习上必要な科目の学力強化を図っている。メディア造形学部 3 学科では指定校推薦入試の合格者に対して作品を提出させ、入学後にスムーズに学習に入っていけるよう入学前指導を行っている。

一方、退学など学生のドロップアウトを抑制する観点から、授業を3回欠席した学生を「授業欠席状況報告書」により把握し、欠席の多い学生をクラスアドバイザーが早期に発見、指導できる体制を整えている。

学生への学習支援の一環として、学内にポータル情報システムを導入し、授業や学生生活に関する諸連絡伝達の効率化を図った。これにより学生は Web による成績照会や休講情報などの効率的な情報収集が可能になった。

又、学内に「情報教育支援室」を置き、教育系情報システム全般の支援を行っている。例えば、パソコン教室を授業以外の時間帯及び長期休暇期間などに自習用に開放し、情報教育の支援を行っている。その際、マイクロソフト社とキャンパスアグリーメント契約を結び、本学生、教職員が Office などのアプリケーションソフトを自宅でも利用できるよう情報教育の支援を行っている。

FD 推進のために設置された教育方法等検討委員会は、「学生による授業評価アンケート」を実施し、学生の意見を把握するとともにその結果を授業の改善に役立てる仕組みを整えている。

又、学生の意見を汲み上げるため、学内に「学長への意見箱」を設置し、学習に関する意見などが

あった場合には、その内容に応じて評議会、教授会、全学委員会などで協議し改善に向けた検討をしている。

加えて、最終年次に管理栄養学部では「卒論発表会」を、メディア造形学部では「卒業制作発表会」を開催している。メディア造形学部の学生は在学中における成果をコンテスト等に応募し各種の賞を受賞している。

②国際交流の概要

<派遣業務>

長期留学の実績として、1期出発の学生1名を学生交換協定校(韓国)へ派遣した。海外研修では7グループ計151名を派遣した。長期留学においては、2期も学生交換協定校(スウェーデン)への留学予定者があったが、先方にて受入れ留学生定員超過のため選考を受けた結果、入学許可を得られず最終的に留学不可となった。今回の結果を踏まえヨーロッパにおける新たな交換協定校を模索することとなった。一方、語学力の向上と専攻の学習の両立が難しいことから、相談者数に対して実際に出願に至る学生数は極めて少なく、採用枠は毎年若干名となっているが、出願基準を満たした学生はほぼ全員派遣できる形となっている。各学科の海外研修においては一部学科が新たな研修を企画したことから、20名ほど増加した。

<留学生受入れ>

学生交換協定校・京畿大学(韓国)より1名の留学生を受け入れた。

<留学生と在在学生との交流>

(名古屋学芸大学・名古屋学芸大学短期大学部)

2010年度より学科・学部が主催するイングリッシュ・ラウンジを開始した。所属学科・学部による直接的な告知や、それぞれ日本人学生に便の良い場所で行われたことにより、各10～20名程度の参加(登録)者があった。チューターとの会話だけでなく、海外研修の事前講習として活用されたり、専攻分野に関連するトピックテーマを設定するなど、従来のイングリッシュ・ラウンジの範疇を超え、それぞれ特色のある企画となった。一方、毎回管理できる担当教員をつけることは難しく、また日本人学生は自由参加となっているため、試験期間には閑散とする回もあり、課題が残った。

<その他>

(名古屋学芸大学・名古屋学芸大学短期大学部)

4月・7月・12月の年3回、TOEFL-ITPを実施した。

③社会貢献・連携活動の概要

<公開講座の開催>

今年度も、本学と浜松において公開講座を開催した。又、名古屋市と共催で公開講座も開催した。又、地元日進市の公開講座に本学の教員が講師として参加し講義を行った。

<地域との連携>

管理栄養学部、メディア造形学部及びヒューマンケア学部(子どもケアセンター)では日進市などとの連携事業を実施している。又、デザイン学科の学生が日進市第5次総合計画マンガダイジェスト版の作成に協力した。

④学生サービスについて

本学は、教育研究のほか学生サービスとして課外活動に対する支援、育英奨学支援、健康相談・心的支援・生活相談を適切に行っている。

2008年秋の世界的な不況により、家計支持者の失職・倒産等により家計が急変し授業料等の支払いが困難になった学生を支援するために給付型の「緊急経済支援奨学金」を創設し、多数の学生を救済した。又、新入学生が早く大学生活に慣れるよう支援するための学生による「新入学生支援ボランティア」を創設し活動を開始している。

学生の課外活動への加入率は、学部の性格上「実験・実習・実技」の科目がカリキュラムに配置されていることもあり、低い状況である。しかし、課外活動も教育の一環であると捉え、加入を促進していくことが今後の課題であると認識している。

日進キャンパスには本学のほか、名古屋学芸大学短期大学部、名古屋外国語大学があり、学生の交流を目的として10月に合同の大学祭を実施している。また、日進キャンパス共通キャラクターを学生等から募集し審査の結果、「竹の子3兄弟」/「フーちゃん・アスアス・ジュンちゃん」に決定した。今後、このキャラクターを利用してグッズの製作等を行い、3大学の学生間の連携を深めていければと考えている。

⑤その他

<学生表彰制度>

学業成績、課外活動、社会的活動、ボランティア活動などの顕著な功績に対し、学長よる学生表彰制度を整備している。前年度は学業成績優秀者等62名に対して学長表彰を行った。

3 名古屋学芸大学短期大学部

(1) 建学の理念・教育目標

現代総合学科は、「人間教育と実学」という建学の精神に基づき、豊かな人間性の涵養と実学の追求という教育理念のもとに、社会人としての自覚を養うとともに、実践的な知識や技術を磨くことにあり、さらに、自然を思いやり、他の人々と協調することのできる高い品格の養成という伝統的な学園風土の中で、幅広い教養と個性の伸長に努めることを教育目標としている。各系の人材養成目的は次のとおりである。

【現代総合学科】

① ITビジネス系

ITスキル(オフィス系・Webアプリケーションの活用能力)とビジネススキル(教養・マナーに裏打ちされたコミュニケーション能力・問題解決能力など)をベースに、幅広いビジネス分野でオールラウンドに活躍できる「即戦力となるビジネスワーカー」の能力を有する人材の育成を目指す。

② 英語コミュニケーション系

人と人との相互理解を深めるために、英語教育を通して優れた言語能力と豊かな自己表現力を身に付けることを目標として、国際社会のニーズに対応した実践的な英語コミュニケーション能力を養い、異文化との交流や理解を通じ、国際感覚豊かな人材の育成を目指す。

③ 生活科学系

多様化する現代社会において、しっかりと地に足をつけた考えを身に付けながら生きる力となる知識と技術を修得することを目標に、望ましい食生活のあり方、個性的で創造性豊かなファッションセンス、そして全ての「ものづくり」に欠かせないデザインの力とセンスを養い、最新の技術をも身につけた実践的な能力を有する人材の育成を目指す。

④ 健康科学系

現代社会で求められている、人に優しい社会づくりに寄与することのできる人材の育成を目標とし、実践的な教育を中心に、健康の保持・増進・快復を支援する機関で活躍するために必要な能力、専門的知識及び資格を備えた人材の育成を目指す。

(2) 教育・研究の概要

① 教育研究上の基本となる組織に関する情報

学 科
現代総合学科

② 教員組織及び教員数並びに教員の保有学位、業績に関する情報

学 科	教員数
現代総合学科	26

本学は、適切な教育課程を確保し運営するため、短期大学設置基準上の教員数を前提として、学内に専任教員の定員定数を定め、計画的に配置している。教員組織及び教員数は別紙資料1のとおりである。

【教員の保有学位または職務上の実績等】

職名	氏名	資格・学位記等
学部長・教授	大津洋子	博士(経済学)
教授	伊藤俊男	商学修士
教授	梅村信夫	博士(数理情報学)
教授	大原榮子	博士(学術)
教授	加藤直良	文学修士
教授	加藤素子	
教授【教職課程主任】	黒澤宣輝	工学修士・修士(教育学)
教授	古藤 真	工学修士
教授	坂田百合子	
教授	田尻紀子	文学修士
教授	中西克彦	経済学修士
教授	萩原範子	管理栄養士・調理師
教授	望月達彦	
教授	安田恵子	
准教授	内田君子	
准教授	垣内シサエ	
准教授	鈴木 薫	
准教授	中西正明	工学修士・一級建築士
准教授	山本 恵	修士(経営情報学)
講師	伊藤琴恵	
講師	草野圭一	
講師	小林よしみ	
講師	塚本佳子	

講師	永井靖人	修士(教育学)
講師	中村則子	
講師	山本恭子	

又、教員の研究業績は「研究紀要」に掲載している。

③学生に関する情報

＜入学者数、収容定員、在学者数、卒業生数、進学者数＞

(2010年5月1日現在)

学科名	入学者数	収容定員	在学者数	卒業生数	進学者数	就職者数	その他
現代総合学科	231	440	469	260	42	180	38

＜入学に関する基本的な方針＞

現代総合学科

1. 「人間教育と実学」という建学の精神に基づいた現代にふさわしい人間性を養い実学を追究する意欲を持った人。
2. 英語コミュニケーション系・健康科学系・ITビジネス系・生活科学系の領域に関心を持ち、それぞれの専門性を高める意欲のある人。
3. 常に新たな課題を見出し、それを解決するために積極的に取り組む意欲のある人。

【健康科学系】

- (1) メディカル秘書モデルでは、医療や福祉、健康に関心がありこの分野で貢献したいという目的意識を持った人、コミュニケーションや人間理解に関心を持っている人、そして、コミュニケーション能力を伸ばしたり、接遇マナーを身に付ける意欲がある。
- (2) 養護教諭モデルでは、養護教諭を目指し、幅広い教養と人間性を身に付けたいという意欲に燃え、心身ともに健康な人、積極的に様々な人の意見を聴くことができ、自分の考え方を述べ、相手の立場を理解して行動できる人、そして、学校等で子どもの心身の健康と安全を守る仕事をするに関心と意欲のある人。

【英語コミュニケーション系】

総合的な英語力向上をめざすとともに、異文化との交流や理解を通じ、豊かな国際感覚を身に付けようと努力できる人。

【ITビジネス系】

ITビジネス系は、ディプロマポリシーに掲げる能力習得の資質を問うものとして、(1) から(5)のうち2項目以上に適合する「良識ある学生」を積極的に受け入れる。

- (1) 幅広い視点から自己の適性・可能性を見出し、これを向上させる意欲を持つ人。
- (2) 相手の気持ち・立場を理解し、互いの利益を考えた行動を取ることができる人。
- (3) IT(情報技術)そのもの、或いは「ITによる業務の効率化」に興味を抱く人。
- (4) 社会全体の動向に注意を払い、大局観を持ちつつ自己を見つめることができる人。

(5) ビジネスワーカーとしての将来目標を設定し、達成に向けて努力・まい進できる人。

【生活科学系】

健やかに生きるライフスタイルを追求し、食、衣、デザインに関する広範な知識と技術を身に付けることを目的とする。

(1) 食生活モデルにおいては、食の分野について実験や実習、体験を通じて学び、考え、行動できる人。

(2) ファッションデザインモデルにおいてはファッションやおしゃれに対して興味や関心を持ち、夢に向かってチャレンジできる学生の入学を期待し、さらに、責任感や忍耐力があり、多くの人とコミュニケーションをとることができる人。

(3) デザインモデルにおいては、絵を描くこと、人と話すこと、ものを作ることが好きな学生で、さらに、好奇心が旺盛で、物事を前向きに考え、かつ、人の痛みがわかりその問題を解決するために工夫をしようとする人。

<就職者数及び卒業後の進路>

卒業生数、進学者数及び就職者数等は以下のとおりである。(2010年度卒業生)

卒業後の進路状況(単位:人)

就職者	進 学 等		海外留学等	一時的な仕事等	その他	計
	編入再入学	専門学校等				
176	15	10	0	0	29	230

就職者の産業分類別状況(単位:人)

建設業	製造業	電気・ガス・水道	情報通信	運輸郵便	卸売小売	金融保険	不動産リース	宿泊・飲食サービス
0	3	0	4	0	62	2	2	1
生活関連サービス	学校教育	教育支援	医療・福祉	複合サービス	その他のサービス	公務	その他	計
25	28	0	45	2	0	1	1	176

④教育課程に関する情報

教育課程は現代総合学科の各系のカリキュラムポリシーに則り編成しており、現代総合学科の教育課程は別紙資料2のとおりである。

⑤学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっての基準に関する情報

【学修の成果に係る評価】

試験、論文審査及び作品審査、その他の方法によるものとし、その方法については、各授業科目の担当者がこれを定める。

試験等学習の評価は、100点法をもって表し、60点以上を合格とする。

【卒業要件】

本学を卒業するためには、学生は2年以上在学し、次の各号に定める単位を含め、62単位以上を修得しなければならない

- (1) 「基礎・人間教育科目」から12単位以上
- (2) 「専門科目」の中から1つの系を選択しその系から26単位以上
- (3) その他「基礎・人間教育科目」、「専門科目」、「エクステンション科目」のいずれかの科目をあわせて24単位以上

⑥学習環境に関する情報

<キャンパスの所在地>

愛知県日進市岩崎町竹ノ山57

<主な交通手段>

地下鉄東山線「上社」駅及び地下鉄鶴舞線・名鉄豊田線「赤池」駅(共同使用)の2駅から専用バスを運行している。本学までの所要時間はいずれも15分である。アクセス図は別紙資料3のとおりである。

<キャンパスの概要>

本学が位置する中西学園日進キャンパスには、同学園を母体とする本学と名古屋学芸大学及び名古屋外国語大学が設置されている。日進キャンパスは、名古屋市東部丘陵地を開発して造成され、この地域には、本学をはじめ、多くの大学が群設しており、日進市の文教地域となっている。キャンパスの校地は、両大学併用であり、面積は145,611.05 m²である。

本学の校舎は、本館、1号館、2号館、3号館、4号館、5号館、6号館と両大学供用の施設である東館、中央図書館、体育館及び厚生施設としてコミュニケーションプラザ、レ・アール(学園ホール)等を有する。本学の校舎面積は、各大学の共有部分を各大学に按分した面積を含めて、33,112.81 m²である。

教室は、1・2・3・5・6号館及び東館にあり、最大224名を収容する大教室をはじめ、大、中、小の講義室、情報教育室が設置されている。又、学科には実習用の教室、演習室が設置されている。更に外国語大学と共用の東館には、同時通訳室、AVホールのほか、メディアを使ったスキルアップ・情報収集など、学生の自学自習を支援するマルチメディアラーニングセンターが設置されている。

又、学生の課外活動及び厚生施設としては、次に述べる運動施設のほか、南食堂のほかコンビニ等が設置されている。加えてコミュニケーションプラザには、書籍(丸善)、喫茶(ユーハイム)、焼たてパン・おにぎり・弁当の店(パスコ)及び留学生、学生相互間、教職員との交流の場としての交流ホール、

ランゲージラウンジが設置されている。

<運動施設の概要>

●体育施設(併設の名古屋学芸大学及び名古屋外国語大学と共用)

- ①体育館は、面積3,550.27 m²を有し、アリーナ、サブアリーナ及び第1多目的ホール並びにトレーニングルームなどを設け、体育授業及び体育会系クラブの活動場所として使用している。
- ②第2多目的ホール(面積646.2m²)は、体育会系クラブの活動場所として使用している。
- ③NUAS ホール(面積554.68m²)は、ヒューマンケア学部及びメディア造形学部の実習室として設置されたが、体育会系クラブの活動場所としても使用している。
- ④第1グラウンドは、面積23,271 m²を有し、体育授業及び体育会系クラブの活動場所として使用している。
- ⑤第2グラウンドは、面積1,926 m²を有し、体育会系クラブの活動場所として使用している。
- ⑥竹ノ山テニスコート(2面:照明設備あり)は、体育授業及び体育会系クラブの活動場所として使用している。
- ⑦南山運動場(テニスコート4面)は、体育会系クラブの活動場所として使用している。

<課外活動の状況>

課外活動について、学生会に登録承認された課外活動団体は、本学の専任教員が顧問となり、その指導に当たっている。又、学生課がその指導助言を行い、予算その他の重要事項については、学生指導専門委員の承認を受けることとしている。課外活動は、学生の自主性に基づき行われ、自己管理能力、自律心を養い、団体行動を通じて実社会において積極的に貢献できる人材を育成することをねらいとしている。本学では、課外活動への参加をオリエンテーション等で積極的に勧めている。短期大学部単独で活動している課外活動には、文化系5団体(Tears、いちごの会、合同祭実行委員会、アロマサークル、NUAS デザイン研究会)体育会系1団体(剣道部)がある。また、同一キャンパスにある名古屋学芸大学、名古屋外国語大学のクラブとの連携を強め、合同で活動を行ったり、両大学のクラブに直接参加したり、3大学の学生が親睦を深め、交流を行っている。

⑦学生納付金に関する情報

<授業料、入学料、その他の費用について>

- ・納付期日 1期 4月1日、2期 9月16日
- ・納付金額(2010年度入学者)
学生の納付金額は別紙資料4のとおりである。

<授業料減免制度の概要>

・減免対象の種類、要件

授業料減免制度の名称	種 類	要 件	採用数
緊急経済支援(授業料減免)特別措置	半期授業料の1/2を免除(若干名)	平成20年9月以降、主たる家計の支持者の失職・倒産等による家計の急変により、学費の納付が困難である場合	1名
激甚災害被災学生に係る学費等免除および見舞金支給	学費(半期)の全額又は半額を減免	激甚災害の指定若しくは、指定が予測される災害により、学費負担者が被災し、学費の納付が困難である場合	なし

・必要手続等

- ・申請書に必要な書類を添付して学生課へ提出(緊急経済支援特別措置)
- ・事由発生後1年以内に必要書類(各種証明書)を整えて学生課へ申請(激甚災害被災者)

⑧学生支援と奨学金に関する情報

<学生支援組織>

事 項	組 織 名	機 能
就職支援	キャリアサポートセンター	学部学科別に職員を配置し、きめ細かい就職支援、進学支援を行っている。又、名古屋駅近くに就活サテライトラウンジを設置し、学生の就職活動の拠点にするとともに、就職活動(試験)のための交通費支援をしている。
進学支援		
履修支援	教務課	学年別の履修ガイダンス、窓口でのきめ細かい修学支援を行っている。
生活支援	学生課	下宿等の斡旋、アルバイトの紹介等きめ細かい生活支援を行っている。
経済支援	学生課	奨学金の説明会を開催し、きめ細かい生活支援を行っている。
保健・衛生・メンタルヘルス等	保健管理センター	病気、怪我等に対応するとともに、心身の相談等、学生のメ

		ンタルヘルスを行っている。
その他	教務課、学生課 等	

<奨学金>

種 類	要 件	申 込 方 法	採 用 数
学校法人中西学園奨学金貸与制度	人物、学業成績が良好で入学後家計支持者の死亡、生別、失職、傷病、災害等が原因で家庭の経済事情が急変し、学納金の納付が困難となったもの	申請書に証明書を添付して学生課まで提出	なし
日本学生支援機構奨学金	日本学生支援機構の定める申請条件による	日本学生支援機構の定める手続きにより学生課を通じて申請を行う	122名
学業成績優秀者等に対する奨学制度	学力優秀かつ品行方正で他の学生の模範となるもの	各学年・各期の最優秀成績の学生3名(但し2年次後期を除く)	9名
指定資格(英語)取得者への奨学給付金	実用英語検定準一級以上(TOEFL:PBT500点以上、TOEIC615点以上)	申請書に証明書を添付して学生課まで申請	なし
公共団体等から表彰を受け、社会的に高い評価を受けた場合若しくは、人命救助、災害救助等に貢献した学生への奨学給付金	公共団体からの表彰若しくは、人命救助、災害救助についての感謝状等	担当教員等の推薦による	なし

(3)管理運営の概要

【ガバナンス】

本学は、管理運営の基本となる「学則」の下に、必要な規程を整備し、管理運営体制を構築している。学則の定めるところにより、管理運営のための上位決定機関として「教授会」を設置し、教員組織、学内諸規程の改廃、学部学科の教育研究計画方針などの重要事項を審議、決定することとしている。

又、その下部組織として各種の委員会が設置され、教育課程、卒業の要件等、学生生活などを審議する機関として機能している。

【自己点検・評価】

学内に「自己評価委員会」を設置し、各事項に関わる自己点検・評価を行い、2009年度自己点検・評価報告書を作成している。

【情報公開】

大学のウェブサイト(<http://www.nuas.ac.jp>)に「短期大学基準協会」による「機関別認証評価報告書」並びに「名古屋学芸大学短期大学部自己点検・評価報告書」を掲載している。

【施設設備整備】

毎年、学科からの施設・設備の改善要求に対し、学校法人と調整の上、重要性の高いものから順次改善を図っている。

2011年3月に第1駐車場の隣接地に名古屋学芸大学、名古屋外国語大学と共用の第2多目的ホール及び第2グラウンドが竣工し、クラブ活動の他諸行事の用に供する体制が整備された。

【その他】

特になし

(4) 上記(「1」)～(「3」)以外の特徴ある取り組みの概要

① 教育力向上の取り組みの概要

入学時及び学期ごとの履修ガイダンスでは、系・モデルが掲げる教育目標に沿った履修指導が行われ、卒業要件や資格取得について、入念に個別指導が行われる。同時に、履修登録に当たってはシラバスを参照させつつ、科目の達成目標との整合性及び評価方法に注意を喚起し、受講の際の注意事項等が詳細に説明される。

特に本学では、1年次の前期終了時期に限って系・モデルの変更を認める制度を設けていることから希望の専門領域が入学時から変化した学生に対して、指導教員とアカデミックカウンセラー(SA)が連携して相談に当たり、系・モデル変更の成否について多角的に検討し、適切な助言を行っている。

SAは学期ごとに個別面談を行う。学習が履修計画どおりに進んでいるか、生活面の不安や問題はなにか等を学生から聞き取りし状況把握に努める。指導内容は、系・モデルの特殊性によりやや異なる。

特に努力している取組み例を挙げると、ビジネス実務モデルでは学期ごとのガイダンスにおいて、学習目標の設定のほか、資格認定に必要な科目の履修と単位計算に漏れの無いよう学生自身が確認するスプレッドシート(ワークシート)を作成、「卒業・資格判定用プログラム」をPC上で利用している。このプログラムは、登録確認表配布時や個人面談の際にも利用され、継続的な指導に役立っている。デザインモデルでは、就職や進学を考慮して1年次からポートフォリオの制作についてのガイダンスを実施し、「ポートフォリオ制作の手引」を配付している。又、2年次に行う「卒業制作」に関しては、1年次終了時にガイダンスを実施し、春休み中に他校の卒業制作展を周る等して、個々が卒業制作の方向性を見出しておくよう指導している。

本学では補習授業の取組みはモデルごとの状況に応じて行う。以下ではそれらの概要を述べる。

養護教諭モデルでは、高校の学習理解度や指導要領の変更に伴い、在学中に生物の授業を受

けなかった学生や、その他の希望者を対象に補充授業を実施している。週1コマ(90分)を1年で開講する。

英語コミュニケーションモデルでは、専門科目の英語の授業はほとんどが習熟度別クラスに編成されており、授業内で学力不足の学生への個別対応が可能になっている。学生3名に教員1名の極めて少人数教育も実施している。

ビジネス実務モデルでは、パソコン関連の実習科目で問題となる導入段階での較差是正に対処するため、入学前教育として「PCスキルアップ講座」を継続的に実施している。ここでは、入学後に「つまづき」の一因となるタッチタイピング能力の向上を目指し、練習用のソフトウェア(フリーウェア)を与えて、入学までに自主学習するよう勧めている。

②国際交流の概要

<派遣業務>

長期留学については1名の派遣予定があったが、本学での学習態度不良につき不許可となり、実績はなし。中期留学は11名、短期海外研修は10名を派遣した。中期留学においては前年度とほぼ同様の人数を派遣している。短期海外研修においても前年から告知を早く行うなど参加者数増加に努めているが、最終的に例年どおりの参加者人数となり、依然として各モデル教員による積極的な宣伝が必要とされる。

<留学生と在学生との交流>

(名古屋学芸大学短期大学部・名古屋学芸大学)

2010年度より学科・学部が主催するイングリッシュ・ラウンジを開始した。所属学科・学部による直接的な告知や、それぞれ日本人学生に便の良い場所で行われたことにより、各10~20名程度の参加(登録)者があった。チューターとの会話だけでなく、海外研修の事前講習として活用されたり、専攻分野に関連するトピックテーマを設定するなど、従来のイングリッシュ・ラウンジの範疇を超え、それぞれ特色のある企画となった。一方、毎回管理できる担当教員をつけることは難しく、また日本人学生は自由参加となっているため、試験期間には閑散とする回もあり、課題が残った。

<その他>

(名古屋学芸大学短期大学部・名古屋学芸大学)

4月・7月・12月の年3回、TOEFL-ITPを実施した。

③社会貢献・連携活動の概要

<公開講座の開催>

短期大学部附属の地域文化研究センターが企画した「名古屋学芸大学短期大学部コミュニティー・カレッジ」で地域住民を対象とした「文化講座」、「資格支援講座」、「開放講座」を開講した。

<地域との連携>

短期大学部に附置された「地域文化研究センター」において地域と連携した事業を実施している。

④学生サービスについて

短期大学部は、教育研究のほか学生サービスとして課外活動に対する支援、育英奨学支援、健康相談・心的支援・生活相談を適切に行っている。

2008年秋の世界的な不況により、家計支持者の失職・倒産等により家計が急変し授業料等の支払いが困難になった学生を支援するために給付型の「緊急経済支援奨学金」を創設し、多数の学生を救済した。又、新入学生が少しでも早く大学生活に慣れるよう支援するための学生による「チア・フレンド」を創設し活動を開始している。

学生の課外活動は、短期大学部の性格上「実験・実習・実技」の科目がカリキュラムに配置されていることもあり、参加率が低く活発な活動が行われていない状況にある。しかし、課外活動も教育の一環であると捉え、学生の参加を促進していくことが今後の課題であると認識している。

日進キャンパスには短期大学部のほか、名古屋学芸大学、名古屋外国語大学があり、学生の交流を目的として10月に合同の大学祭を実施している。又、日進キャンパス共通キャラクターを学生等から募集し審査の結果、「竹の子3兄弟」／「フーちゃん・アスアス・ジュンちゃん」に決定した。今後、このキャラクターを利用してグッズの製作等を行い、3大学の学生間の連携を深めていければと考えている。

⑤その他

<学生表彰制度>

学業成績、課外活動、社会的活動、ボランティア活動などの顕著な功績に対し、学長よる学生表彰制度を整備している。前年度は学業成績優秀者等 14 名に対して学長表彰を行った。

4 NSC専門学校

(1) 収容定員及び在籍者数(2010年5月1日現在)

	収容定員	在籍者数
名古屋ファッション専門学校	430	206
名古屋栄養専門学校	180	128
名古屋総合デザイン専門学校	260	103
名古屋製菓専門学校	320	326
専門学校計	1,190	763

(2) 教育の概要

【名古屋ファッション専門学校】

名古屋ファッション専門学校は、テクニカルクリエイターコースを設定し3年間の一貫教育のメリットを生かしたファッションマスター科(3年課程)と、デザイナーコースとパターンナーコースから構成されるファッション造形科(2年課程)、スタイリストコース・ファッションビジネスコース・ストアマネジメントコースから構成されるファッション流通科(2年課程)を設置している。

また、その教育課程の特色は、50年以上に及ぶ服飾教育の伝統と実績を踏まえつつ、常にファッション界をリードするクリエイティブなデザイナー、パターンナー、ファッションアドバイザー、スタイリスト等を育成し得る実践的カリキュラム編成を考え、時代や地域社会特性の要請に沿った専門教育を徹底している。

【名古屋栄養専門学校】

栄養士資格が取得できる専門教育機関として、学生による授業評価により教育内容の質的向上を目指しつつ、実践的カリキュラムを構築する。また、充実した施設設備を活用し栄養・食品科学に関する高度な知識と技術を習得し、地域社会に貢献する新しい時代に即応した「栄養士」養成を目的とする。

【名古屋総合デザイン専門学校】

名古屋総合デザイン専門学校は、デザイン業界で使用されているC.G.コンピュータ、CADコンピュータを駆使できる専門教育も積極的に取り入れ、名古屋総合デザイン専門学校では、インテリアデザイナー、グラフィックデザイナーとして心豊かな人間性を育むため、感性・技能・社会性を教育の柱とし、学生の潜在的能力を引き出すと同時に、個性の再発見、表現力豊かな技能・技術の習得を目的としている。グラフィックデザイン科、インテリアデザイン科(各2年課程)の2学科を設置しており、各学科中にはWebデザイン、キャラクター、住宅インテリアコーディネーター、CAD、C.G.パース、イラストレーションといった学生の志向と就職に直結するコースを設定している。

【名古屋製菓専門学校】

名古屋製菓専門学校は、洋菓子科(2年課程)・製菓衛生師科(1年課程)・製パン科(1年課程)の3学科から構成されており、充実した施設設備のもと、常に新しい技術を追求し、国内外の有名パティシエを招聘する機会を設け、アートとしてのスイーツを考え色彩の学習や新しい食文化の習得に努め、産業界並びに社会の要請に応えられる技術・技能を有する製菓・製パンの技術者の養成を目的としている。また、例年学生はさまざまなコンテストに参加し、優秀な成績を修めている。2010年度はジャパンケーキショー東京にて金賞を受賞した。また技能五輪全国大会においては銅賞・敢闘賞を受賞した。中部洋菓子技術コンテスト(学生の部)では大会会長賞(1位)をはじめ7名が受賞し、名古屋製菓専門学校生の高い技術力が評価された結果となった。

(3) 入試に関する状況

NSC専門学校における2011年学生募集状況は、名古屋栄養専門学校では志願者数及び入学者数が前年度を上回り入学定員を満たす結果となった。また名古屋総合デザイン専門学校はほぼ前年度と同様、名古屋ファッション専門学校及び名古屋製菓専門学校では前年度から若干減少したが、名古屋製菓専門学校はほぼ定員に近い入学者を確保できた。

(単位:人、カッコは前年度実績)

	名古屋ファッション	名古屋栄養	名古屋総合デザイン	名古屋製菓
入学定員	210(210)	90(90)	120(140)	200(200)
志願者数	91(104)	100(82)	74(74)	210(223)
受験者数	91(104)	99(81)	73(74)	210(220)
合格者数	91(103)	99(81)	73(73)	204(216)
入学者数	87(103)	91(77)	70(72)	194(209)

(4) 就職に関する状況

2010年度の各専門学校の内定率は、名古屋ファッション専門学校98.5% (前年度95.0%)、名古屋栄養専門学校100.0% (前年度97.6%)、名古屋総合デザイン専門学校(2009年度は学校NSCデザイン工科カレッジ) 70.8% (前年度80.0%)、名古屋製菓専門学校95.7% (前年度94.2%)、NSC全体で94.6% (前年度93.4%) と就職状況が厳しい中ほぼ前年度を上回る高い内定率を保つことができた。

(4) 海外研修

2010年度は名古屋ファッション専門学校では約10日間に亘りヨーロッパ(イタリア・イギリス・フランス)研修を行い16名が参加した。また名古屋製菓専門学校では約15日間に亘りヨーロッパ(ベルギー・フランス)研修を行い56名が参加し、参加した学生は海外でのより高度な専門知識を身をもって経験し有意義な研修を行うことができた。

5 菱野幼稚園

(1) 収容定員及び在籍者数(2010年5月1日現在)

	収容定員	在籍者数
3歳児	105	140
4歳児	105	139
5歳児	105	129
合計	315	408

(2) 教育の概要

菱野幼稚園では、「感受性」「自主性」「創造性」を助長するため、具体的には「水泳、マラソン等による丈夫な体作り」「絵画、工作、楽器演奏等を通じた個性的な感性の育成」「動植物の飼育・観察による優しい心の育成」「遊びの中から文字、数字等の理解と自ら思考する学習指導」「集団生活のなかにおける規律、挨拶など道徳心の重視」等を教育目的としている。

(3) 園児の募集状況について

菱野幼稚園の入園募集活動は、地元である瀬戸市を中心として幼稚園に対する評価が高く例年順調に推移しており、今年度の入園生も募集定員を上回る結果となった。

① 園児募集計画

入園説明会 日時 2010年9月1日 10:00～12:00(2部制)
場所 菱野幼稚園 2階 遊戯室
入園願書受付 日時 2010年10月1日 8:00～
場所 菱野幼稚園 2階 遊戯室

② 募集定員(3歳児)

入園定員数 105名
入園者数 140名

6 土地・施設設備整備事業

2010年度に行った主な土地・施設設備整備事業は下記のとおりである。

(1) 日進キャンパス近隣土地の買収

所在地	地積(m ²)
日進市岩崎町竹の山76番19他	1,021
日進竹の山南部特定土地区画整理組合仮監置13街区1番	868.08
日進竹の山南部特定土地区画整理組合仮監置11街区9番	433.19

(2) 施設設備設置・改修・更新

整備内容
日進キャンパス第2多目的ホール新設
日進キャンパス第2グラウンド設備
日進キャンパスクラブハウス
名古屋外国語大学K館熱源更新工事
NSCカレッジ中央棟耐震・改修工事
名古屋学芸大学メディア造形学部映像メディア学科ハイビジョンコンテンツ制作システム

Ⅲ 財務の概要

(1) 決算の概要

①消費収支計算書（表 1）

2010 年度と 2009 年度の消費収支計算書の比較は表 1 の通りとなった。

消費収入の部では、帰属収入が 109 億 75 百万円で前年度から約 1 億 90 百万円増加した。また、基本金組入後の消費収入は 60 億 2 百万円となり、前年度と比較して 19 億 82 百万円の増加となった。

一方、消費支出の部では総額 99 億 82 百万円で前年度と比較して 2 億 21 百万円減少した。

上記の結果、消費収入から消費支出を差し引いた消費収支差額は 39 億 79 百万円のマイナスとなり、翌年度繰越消費収入超過額は 8 億 81 百万円となった。

また基本金組入前の収支差額比率は 9.1%となり、前年の 5.4%から 3.7%増加した。

②資金収支計算書（表 2）

2010 年度と 2009 年度の資金収支計算書の比較は表 2 に示す通りとなった。

資金収入の部においては 439 億 53 百万円、支出の総計から期末未収入金等の資金収入調整勘定を差し引いた金額は 342 億 75 百万円、結果として次年度繰越支払資金は 96 億 78 百万円となり、2009 年度と比較して 35 億 1 百万円増加した。

③貸借対照表（表 3）

2010 年度と 2009 年度の貸借対照表の比較は表 3 のとおりである。

資産の部においては、2009 年度と比較して固定資産が 9 億 20 百万円減少、流動資産が 18 億 41 百万円増加、合計で 9 億 21 百万円の増加となった。

負債の部では、2009 年度と比較して 72 百万円減少し 35 億 91 百万円となった。

基本金の部では、46 億 17 百万円増加し 467 億 77 百万円となった。

資産の部から負債の部を差し引いた自己資本総額は 476 億 58 百万円となり、この内訳は基本金 467 億 77 百万円、繰越消費収支差額 8 億 81 百万円となった。

④財産目録（表 4）

2010 年度末における学校法人中西学園の財産は、土地・建物等の基本財産が 239 億 79 百万円、現預金・有価証券等の運用財産が 272 億 70 百万円、合計で 512 億 49 百万円となった。これに対し負債は 35 億 91 百万円、純資産は 476 億 58 百万円となり、2009 年度と比較して 9 億 93 百万円増加した。

また負債額から前受金を差し引いた正味負債額に対する総資産の比率は 3.5%である

(表1)

消費収支計算書

(単位:円)

消費収入の部			
科 目	2010年度	2009年度	差異
学生生徒等納付金	9,224,342,690	9,236,132,450	△ 11,789,760
手数料	203,561,210	200,470,680	3,090,530
寄付金	13,350,000	12,475,000	875,000
補助金	643,878,116	661,775,087	△ 17,896,971
資産運用収入	210,834,021	215,170,693	△ 4,336,672
資産売却差額	191,237,379	15,642,028	175,595,351
事業収入	304,979,524	298,670,236	6,309,288
雑収入	182,464,219	145,023,730	37,440,489
帰属収入合計	10,974,647,159	10,785,359,904	189,287,255
基本金組入額合計	△ 4,971,966,927	△ 6,764,458,376	1,792,491,449
消費収入の部合計	6,002,680,232	4,020,901,528	1,981,778,704
消費支出の部			
科 目	2010年度	2009年度	差異
人件費	4,733,410,257	4,747,116,321	△ 13,706,064
(教員人件費)	3,504,008,356	3,474,179,078	29,829,278
(職員人件費)	1,095,066,732	1,032,577,461	62,489,271
(役員報酬)	50,044,445	58,337,996	△ 8,293,551
(退職金)	17,867,898	18,431,950	△ 564,052
(退職給与引当金繰入額)	66,422,826	163,589,836	△ 97,167,010
教育研究経費	2,737,003,348	2,787,175,933	△ 50,172,585
(うち減価償却額)	934,107,365	1,012,917,745	△ 78,810,380
管理経費	1,780,377,483	1,552,122,264	228,255,219
(うち減価償却額)	35,598,284	37,972,236	△ 2,373,952
借入金等利息	0	5,255,752	△ 5,255,752
資産処分差額	731,145,561	1,110,830,004	△ 379,684,443
徴収不能額	0	0	0
消費支出の部合計	9,981,936,649	10,202,500,274	△ 220,563,625
当年度消費収入超過額	△ 3,979,256,417	△ 6,181,598,746	2,202,342,329
前年度繰越消費収入超過額	4,505,394,580	10,096,589,833	△ 5,591,195,253
基本金取崩額	355,145,012	590,403,493	△ 235,258,481
翌年度繰越消費収入超過額	881,283,175	4,505,394,580	△ 3,624,111,405

(表2)

資金収支決算

(単位:円)

収入の部			
科 目	2010年度	2009年度	差異
学生生徒等納付金収入	9,224,342,690	9,236,132,450	△ 11,789,760
手数料収入	203,561,210	200,470,680	3,090,530
寄付金収入	13,350,000	12,475,000	875,000
補助金収入	643,878,116	661,775,087	△ 17,896,971
資産運用収入	210,834,021	215,170,693	△ 4,336,672
資産売却収入	26,780,688,780	60,662,789,230	△ 33,882,100,450
事業収入	304,979,524	298,670,236	6,309,288
雑収入	182,464,219	145,023,730	37,440,489
前受金収入	1,772,986,000	1,785,625,375	△ 12,639,375
その他の収入	377,901,592	255,884,917	122,016,675
収入の総計	39,714,986,152	73,474,017,398	△ 33,759,031,246
資金収入調整勘定	△ 1,939,188,956	△ 1,898,031,976	△ 41,156,980
差し引き	37,775,797,196	71,575,985,422	△ 33,800,188,226
前年度繰越支払資金	6,176,818,128	2,289,064,115	3,887,754,013
収入の部合計	43,952,615,324	73,865,049,537	△ 29,912,434,213
支出の部			
科 目	2010年度	2009年度	差異
人件費支出	4,795,826,131	4,695,689,685	100,136,446
教育研究経費支出	1,802,895,983	1,774,258,188	28,637,795
管理経費支出	1,744,779,199	1,514,150,028	230,629,171
借入金等利息支出	0	5,255,752	△ 5,255,752
借入金等返済支出	0	236,450,000	△ 236,450,000
施設関係支出	974,929,622	1,375,130,361	△ 400,200,739
設備関係支出	210,715,646	178,969,576	31,746,070
資産運用支出	24,634,681,700	57,818,342,400	△ 33,183,660,700
その他の支出	320,374,678	291,958,154	28,416,524
支出の総計	34,484,202,959	67,890,204,144	△ 33,406,001,185
資金支出調整勘定	△ 209,323,741	△ 201,972,735	△ 7,351,006
差し引き	34,274,879,218	67,688,231,409	△ 33,413,352,191
次年度繰越支払資金	9,677,736,106	6,176,818,128	3,500,917,978
支出の部合計	43,952,615,324	73,865,049,537	△ 29,912,434,213

(表3)

貸借対照表

(単位：円)

資産の部 科 目	2010年度	2009年度	増 減
固定資産	41,307,233,176	42,227,132,628	△ 919,899,452
有形固定資産	23,941,065,135	23,800,429,608	140,635,527
土地	9,013,143,163	8,640,613,291	372,529,872
建物	13,849,989,550	13,979,159,623	△ 129,170,073
構築物	443,259,526	466,102,366	△ 22,842,840
教育研究用機器備品	395,532,934	451,930,093	△ 56,397,159
その他の機器備品	46,652,412	66,790,578	△ 20,138,166
図書	178,221,359	173,727,719	4,493,640
車輛	14,266,191	17,105,938	△ 2,839,747
建設仮勘定	0	5,000,000	△ 5,000,000
その他の固定資産	17,366,168,041	18,426,703,020	△ 1,060,534,979
電話加入権	25,870,242	8,289,137	17,581,105
施設利用権	8,289,137	4,497,418	3,791,719
ソフトウェア	4,107,546	4,113,900	△ 6,354
差入保証金	16,357,000	17,407,200	△ 1,050,200
出資金	46,668,470	46,906,410	△ 237,940
有価証券	3,106,923,101	8,413,850,401	△ 5,306,927,300
長期貸付金	8,697,545	9,638,554	△ 941,009
第2号基本金引当資産	1,240,255,000	450,000,000	790,255,000
第3号基本金引当資産	8,900,000,000	5,400,000,000	3,500,000,000
退職給与引当特定資産	1,509,000,000	1,572,000,000	△ 63,000,000
運営資金積立資産	2,500,000,000	2,500,000,000	0
流動資産	9,941,665,116	8,101,110,911	1,840,554,205
現金預金	9,677,736,106	6,176,818,128	3,500,917,978
未収入金	153,563,581	129,898,476	23,665,105
仮払金	110,365,429	119,581,907	△ 9,216,478
有価証券	0	1,674,812,400	△ 1,674,812,400
資産の部合計	51,248,898,292	50,328,243,539	920,654,753
負債の部			
固定負債	1,509,962,156	1,572,378,030	△ 62,415,874
長期借入金	0	0	0
退職給与引当金	1,509,962,156	1,572,378,030	△ 62,415,874
流動負債	2,081,001,309	2,090,641,192	△ 9,639,883
短期借入金	0	0	0
未払金	209,323,741	201,972,735	7,351,006
前受金	1,772,986,000	1,785,625,375	△ 12,639,375
預り保証金	9,500,000	12,000,000	△ 2,500,000
預り金	89,191,568	91,043,082	△ 1,851,514
負債の部合計	3,590,963,465	3,663,019,222	△ 72,055,757
基本金の部			
第1号基本金	35,964,396,652	35,637,829,737	326,566,915
第2号基本金	1,240,255,000	450,000,000	790,255,000
第3号基本金	8,900,000,000	5,400,000,000	3,500,000,000
第4号基本金	672,000,000	672,000,000	0
基本金の部合計	46,776,651,652	42,159,829,737	4,616,821,915
消費収支差額の部			
翌年度繰越消費収入超過額	881,283,175	4,505,394,580	△ 3,624,111,405
消費収支差額の部合計	881,283,175	4,505,394,580	△ 3,624,111,405
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	51,248,898,292	50,328,243,539	920,654,753

(表4)

財産目録総括表

科目	年度		2010年度末		2009年度末		差異	
基本財産			23,979,331 千円		23,817,331 千円		162,000 千円	
土地	388,634.3 m ²		9,013,143 千円		385,549.6 m ²	8,640,613 千円	3,084.7 m ²	372,530 千円
建物	91,950.6 m ²		13,849,989 千円		93,607.6 m ²	13,979,160 千円	-1,657.0 m ²	△ 129,171 千円
その他			1,116,199 千円			1,197,558 千円		△ 81,359 千円
運用財産			27,269,566 千円		26,510,913 千円		758,653 千円	
現金・預金			9,677,736 千円		6,176,818 千円		3,500,918 千円	
第2号基本金引当資産			1,240,255 千円		450,000 千円		790,255 千円	
第3号基本金引当資産			8,900,000 千円		5,400,000 千円		3,500,000 千円	
退職給与引当資産			1,509,000 千円		1,572,000 千円		△ 63,000 千円	
運営資金積立金			2,500,000 千円		2,500,000 千円		0 千円	
有価証券			3,106,923 千円		10,088,663 千円		△ 6,981,740 千円	
その他			335,652 千円		323,432 千円		12,220 千円	
負債額			3,590,964 千円		3,663,019 千円		△ 72,055 千円	
固定負債			1,509,962 千円		1,572,378 千円		△ 62,416 千円	
日本私学共済事業財団			0 千円		0 千円		0 千円	
退職給与引当金			1,509,962 千円		1,572,378 千円		△ 62,416 千円	
流動負債			2,081,002 千円		2,090,641 千円		△ 9,639 千円	
短期借入金			0 千円		0 千円		0 千円	
前受金			1,772,986 千円		1,785,625 千円		△ 12,639 千円	
未払金			209,324 千円		201,973 千円		7,351 千円	
その他			98,692 千円		103,043 千円		△ 4,351 千円	
基本財産+運用財産			51,248,897 千円		50,328,244 千円		920,653 千円	
純資産			47,657,933 千円		46,665,225 千円		992,708 千円	
総負債-前受金			3.5%		3.7%			
総資産								

名古屋学芸大学

(別紙資料 1)

専任教員数一覧

● 名古屋学芸大学 (大学院を含む)

(単位：人)

学部名等	学長		教授		准教授		講師		助教		助手		計		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
学長	1												1		1
管理栄養学部			8	2	3	0	0	5	2	3	0	11	13	21	34
メディア造形学部			22	3	4	2	3	0	4	1	7	5	40	11	51
ヒューマンケア学部			4	6	0	5	0	5	0	1	2	6	6	23	29
大学院			2	2									2	2	4
その他			6	3									6	3	9
計	1		42	16	7	7	3	10	6	5	9	22	68	60	128
上記本務教員のうち(再掲)			18	4	3	0	0	2	3	3			24	9	33
外国人			2	1			2	0			1	0	5	1	6




NUAS
名古屋学芸大学
NAGOYA UNIVERSITY OF ARTS AND SCIENCES

(別紙資料2)

収容定員・入学者・在学者一覧

(2010.5.1現在)

 名古屋学芸大学大学院

(博士前期課程・修士課程)

(人)

研究科名(専攻名)	収容定員	入学者数	在学者数					
			1年次		2年次		合計	
			男	女	男	女	男	女
栄養科学研究科 (栄養科学専攻)	10	2	0	6	4	8	4	12
メディア造形研究科 (メディア造形専攻)	10	10	4	2	2	8	6	14
合計	20	12	4	8	6	16	10	26

(博士後期課程)

(人)

研究科名(専攻名)	収容定員	入学者数	在学者数							
			1年次		2年次		3年次		合計	
			男	女	男	女	男	女	男	女
栄養科学研究科 (栄養科学専攻)	6	1	0	1	1	0	2	2	3	5



NUAS
名古屋学芸大学
NAGOYA UNIVERSITY OF ARTS AND SCIENCES



学部・学科名	収容定員	入学者数	在学者数											
			1年次		2年次		3年次		4年次		合計			
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		
管理栄養学部 管理栄養学科	640	176	18	158	16	151	28	146	24	146	86	601	687	
メディア造形学部 映像メディア学科	400	115	56	59	54	79	67	55	75	50	252	243	495	
デザイン学科	320	80	14	66	24	55	31	59	28	56	97	236	333	
ファッション造形学科	280	82	8	74	15	73	10	76	17	63	50	286	336	
学部計	1,000	277	78	199	93	207	108	190	120	169	399	765	1,164	
コミュニケーション学部 子どもケア学科	640	181	17	164	20	146	13	163	24	140	74	613	687	
合計	2,280	634	113	521	129	504	149	499	168	455	559	1,979	2,538	



卒業者数（修了者数）・進学者数・就職者数（2009年卒業者対象）

（2010.5.1現在）

● 名古屋芸術大学大学院

（博士前期課程・修士課程）

（人）

研究科名(専攻名)	修了者数	進学者数	就職者数	その他
栄養科学研究科 (栄養科学専攻)	男	2	1	1
	女	2	1	1
メディア造形研究科 (メディア造形専攻)	男	3		2
	女	1		1
合計	男	5	1	3
	女	3	1	2

（博士後期課程）

（人）

研究科名(専攻名)	修了者数	進学者数	就職者数	その他
栄養科学研究科 (栄養科学専攻)	男	0		
	女	0		



学部・学科名	卒業者数	進学者数	就職者数	その他
管理栄養学部 管理栄養学科	男	4	19	2
	女		135	10
メディア造形学部 映像メディア学科	男	5	38	15
	女	4	31	17
デザイン学科	男	4	25	12
	女	4	27	12
ファッション造形学科	男	6	11	
	女	6	58	
学部計	男	15	74	27
	女	159	116	29
ヒューマンケア学部 子どもケア学科	男	1	14	
	女	8	127	13
合計	男	20	107	29
	女	22	378	52



(別紙資料3) 教育課程に関する情報

栄養科学研究科 栄養科学専攻 博士前期課程 授業科目

区分	授業科目名	単位数		備 考
		必修	選択	
栄養科学領域	人間栄養学特論		2	栄養科学領域から14単位以上「健康科学領域」、「生体科学領域」、「食物科学領域」のうちから8単位以上、及び特別研究8単位の合計30単位以上取得し、修士論文に合格すること。
	人間栄養学演習		2	
	予防栄養学特論		2	
	予防栄養学演習		2	
	臨床栄養学特論		2	
	臨床栄養学演習		2	
	応用栄養学特論		2	
	応用栄養学演習		2	
	運動栄養学特論		2	
	運動栄養学演習		2	
	栄養教育学特論		2	
	栄養教育学演習		2	
	栄養科学特講		2	
	食心理学特論		2	
	食心理学演習		2	
	臨床栄養インターンシップ		6	
健康科学領域	健康管理学特論		2	
	健康管理学演習		2	
	高齢者医療・介護特論		2	
	高齢者医療・介護演習		2	
生体科学領域	栄養生化学特論		2	
	栄養生化学演習		2	
	栄養生理学特論		2	
	栄養生理学演習		2	
食物科学領域	食品・機能学特論		2	
	食品・機能学演習		2	
	食品栄養学特論		2	
	食品栄養学演習		2	
	特 別 研 究	8		

栄養科学研究科 栄養科学専攻 博士後期課程 授業科目

区分	授業科目名	単位数		備 考
		必修	選択	
	博士特別研究	8		8単位を修得し、かつ必要な論文指導を受けた上、本大学院が行う博士論文の審査及び最終試験に合格すること。

メディア造形研究科 メディア造形専攻 修士課程 授業科目

区分	授業科目名	単位数		備 考
		必修	選択	
関連科目	基礎芸術特論		2	関連科目から8単位以上 実践科目から12単位以上 及び特別研究10単位の合計30単位以上 取得し、修士論文に合格すること。
	基礎芸術演習		2	
	ユニバーサルデザイン特論		2	
	ユニバーサルデザイン演習		2	
	デザインマネジメント特論		2	
	デザインマネジメント演習		2	
実践科目	映像表現特論		2	
	映像表現演習		2	
	フォトグラフ特論		2	
	フォトグラフ演習		2	
	映画撮影特論		2	
	映画撮影演習		2	
	コンピュータ・グラフィックス特論		2	
	コンピュータ・グラフィックス演習		2	
	CGアニメーション特論		2	
	CGアニメーション演習		2	
	ビジュアルデザイン特論		2	
	ビジュアルデザイン演習		2	
	環境空間デザイン特論		2	
	環境空間デザイン演習		2	
	プロダクトデザイン特論		2	
	プロダクトデザイン演習		2	
	トランスポートデザイン特論		2	
	トランスポートデザイン演習		2	
	クリエイティブデザイン特論		2	
	クリエイティブデザイン演習		2	
	ファッションデザイン特論		2	
	ファッションデザイン演習		2	
	ファッションビジネス特論		2	
	ファッションビジネス演習		2	
テキスタイル特論		2		
テキスタイル演習		2		
特別研究		10		

別表第 1

管理栄養学部管理栄養学科

授 業 科 目		単位数			備 考
		必修	選択	自由	
教 養 科 目	人間の探求	哲学へのいざない		2	教養科目は、人間の探究、歴史と文学、社会のしくみ、現代社会の特質、自然科学へのいざない、芸術の世界、ウェルネスから5分野を選択、各2単位、計10単位以上を履修する。および言語の世界と情報の技術の2分野から4単位以上を履修する。その他、任意の科目から選択し合計24単位以上を履修する。
		宗教と文化		2	
		現代社会と倫理		2	
		心の科学		2	
		青年期の心理		2	
	歴史と文学	日本の歴史		2	
		西洋の歴史		2	
		アジアの歴史		2	
		歴史と社会		2	
		日本の文学		2	
		英米の文学		2	
	社会のしくみ	日本の憲法		2	
		法と社会		2	
		政治と社会		2	
		経済と社会		2	
		企業と社会		2	
	現代社会の特質	情報と社会		2	
		社会学		2	
		アメリカの社会と文化		2	
		民族と文化		2	
		国際社会の動き		2	
	自然科学へのいざない	数と形		2	
		確率と統計		2	
		人間と地球環境		2	
		自然のしくみ		2	
		科学の歴史		2	
	芸術の世界	美術の世界		2	
		音楽の世界		2	
		文芸の世界		2	
		演劇の世界		2	
	ウェルネス	スポーツと健康Ⅰ(実習Ⅰ)		1	
		スポーツと健康Ⅱ(実習Ⅱ)		1	
スポーツと健康科学			2		
言語の世界	英語コミュニケーションⅠ		1		
	英語コミュニケーションⅡ		1		
	英語コミュニケーションⅢ		1		
	総合英語Ⅰ		2		
	総合英語Ⅱ		2		
	総合英語Ⅲ		2		
	実践英語Ⅰ		2		
	実践英語Ⅱ		2		
	実践英語Ⅲ		2		
	フランス語Ⅰ		2		
	フランス語Ⅱ		2		
	中国語Ⅰ		2		
	中国語Ⅱ		2		
日本語表現		2			

授 業 科 目		単位数			備 考	
		必修	選択	自由		
教 養 科 目	情報の技術	情報リテラシー		2		
		表計算演習		2		
		プレゼンテーション演習		2		
		データベース演習		2		
		プログラミング演習		2		
		ネットワーク論		2		
		システム開発と運用論		2		
		情報基礎論		2		
		情報倫理		2		
	学際的 こころみ	総合講座Ⅰ		2		
		総合講座Ⅱ		2		
		教養総合演習Ⅰ		2		
		教養総合演習Ⅱ		2		
専 門 科 目	社会・環境と健康	公衆衛生学Ⅰ	2			
		公衆衛生学Ⅱ	2			
		公衆衛生学実習	1			
		医療福祉概論	2			
		医療福祉実習	1			
		健康管理論		2		
		食と環境		2		
		社会保障概論		2		
		介護概論		2		
		衛生環境システム		2		
		人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	解剖生理学Ⅰ	2		
			解剖生理学Ⅱ	2		
	解剖生理学実験		1			
	生化学Ⅰ		2			
	生化学Ⅱ		2			
	基礎生化学実験		1			
	生化学実験		1			
	疾病学Ⅰ		2			
	疾病学Ⅱ		2			
	疾病学Ⅲ		2			
	代謝栄養学実験		1			
	食物とアレルギー			2		
	薬理学		2			
	食べ物と健康	食品学Ⅰ	2			
		食品学Ⅱ	2			
		食品微生物学	2			
		食品機能論学		2		
		食品学実験Ⅰ	1			
		食品学実験Ⅱ	1			
		調理学	2			
		調理学実習Ⅰ	1			
		調理科学実験	1			
		食品分析化学		2		
健康食品とサプリメント			2			

		授 業 科 目	単位数			備 考	
			必修	選択	自由		
専 門 科 目	専門基礎分野	管理栄養士専門基礎	管理栄養士概論		2		
			基礎化学Ⅰ（基礎生化学を含む）	2			
			基礎化学Ⅱ		2		
			生命の科学		2		
			食事計画演習		1		
			科学英語		2		
			管理栄養士特講（エキサイティング）		2		
	専 門 分 野	基礎栄養学	基礎栄養学	基礎栄養学	2		
				基礎栄養学実習	1		
				分子栄養学		2	
		応用栄養学	応用栄養学	応用栄養学Ⅰ	2		
				応用栄養学Ⅱ	2		
				応用栄養学Ⅲ	2		
				スポーツと栄養		2	
				応用栄養学実習	1		
		栄養教育論	栄養教育論	栄養教育論(理論)	2		
				栄養指導論(実践)	2		
				栄養カウンセリング	2		
				栄養カウンセリング演習		2	
		臨床栄養学	臨床栄養学	臨床栄養学Ⅰ	2		
				臨床栄養学Ⅱ	2		
				臨床栄養学Ⅲ	2		
				臨床栄養学Ⅳ	2		
				臨床栄養学実習Ⅰ	1		
				臨床栄養学実習Ⅱ	1		
				臨床医学特論		2	
				栄養ケア・マネジメント演習		2	
		公衆衛生学	公衆衛生学	公衆栄養学Ⅰ	2		
				公衆栄養学Ⅱ	2		
				公衆栄養学実習	1		
		給食経営管理論	給食経営管理論	給食管理	2		
				給食経営	2		
給食管理実習				2			
総合演習		総合演習	総合演習Ⅰ	1			
			総合演習Ⅱ	1			
臨地実習		臨地実習	管理栄養士実習 (臨床栄養・公衆栄養・給食管理施設)	4			
関連分野		関連分野	管理栄養士演習（卒業演習・研究）	4			

メディア造形学部

授 業 科 目		単位数又は時間数			備 考
		必修	選択	自由	
教 養 科 目	人間の探求	哲学へのいざない		2	
		宗教と文化		2	
		現代社会と倫理		2	
		心の科学		2	
		青年期の心理		2	
	歴史と文学	日本の歴史		2	
		西洋の歴史		2	
		アジアの歴史		2	
		歴史と社会		2	
		日本の文学		2	
		英米の文学		2	
	社会のしくみ	日本の憲法		2	
		法と社会		2	
		政治と社会		2	
		経済と社会		2	
		企業と社会		2	
	現代社会の特質	情報と社会		2	
		社会学		2	
		アメリカの社会と文化		2	
		民族と文化		2	
		国際社会の動き		2	
	自然科学へのいざない	数と形		2	
		確率と統計		2	
		人間と地球環境		2	
		自然のしくみ		2	
		科学の歴史		2	
	芸術の世界	美術の世界		2	
		音楽の世界		2	
		文芸の世界		2	
		演劇の世界		2	
	ウェルネス	スポーツと健康Ⅰ(実習Ⅰ)		2	
		スポーツと健康Ⅱ(実習Ⅱ)		2	
スポーツと健康科学			2		
言語の世界	英語コミュニケーションⅠ		1		
	英語コミュニケーションⅡ		1		
	英語コミュニケーションⅢ		1		
	総合英語Ⅰ		2		
	総合英語Ⅱ		2		
	総合英語Ⅲ		2		
	実践英語Ⅰ		2		
	実践英語Ⅱ		2		
	実践英語Ⅲ		2		
	フランス語Ⅰ		2		
	フランス語Ⅱ		2		
	中国語Ⅰ		2		
	中国語Ⅱ		2		
	日本語表現		2		

教養科目は、人間の探究、歴史と文学、社会のしくみ、現代社会の特質、自然科学へのいざない、芸術の世界、ウェルネスから5分野を選択、各2単位、計10単位以上を履修する。および言語の世界と情報の技術の2分野から4単位以上を履修する。その他、任意の科目から選択し合計24単位以上を履修する。

授 業 科 目		単位数又は時間数			備 考	
		必修	選択	自由		
教 養 科 目	情報の技術	情報リテラシー		2		各学科とも学部共通専門科目を含む専門科目90単位以上履修のこと。
		表計算演習		2		
		プレゼンテーション演習		2		
		データベース演習		2		
		プログラミング演習		2		
		ネットワーク論		2		
		システム開発と運用論		2		
		情報基礎論		2		
		情報倫理		2		
	学際 のこ ろみ	総合講座Ⅰ		2		
		総合講座Ⅱ		2		
		教養総合演習Ⅰ		2		
		教養総合演習Ⅱ		2		
専 門 科 目	学部共通専門科目	総合講座 クリエーションナウ		2		
		現代映像論		2		
		メディア論 (コミュニケーションとメディア)		2		
		認知心理学		2		
		美学		2		
		芸術英語コミュニケーション		2		
		西洋美術史		2		
		日本美術史		2		
		東洋美術史		2		
		先端芸術論		2		
		アントレプレナーⅠ (会社設立)		2		
		アントレプレナーⅡ (会社運営)		2		
		映画鑑賞・評価		2		
	映 像 メ デ ィ ア 専 門 科 目	必 修 科 目	基礎映像メディア演習 (フोट)	2		
			基礎映像メディア演習 (映画・ビデオ)	2		
			基礎映像メディア演習 (コンピュータグラフィックス)	2		
			基礎映像メディア演習 (サウンド)	2		
			映像メディア基礎論	2		
			人間研究	2		
			ドローイング	1		
			グラフィックデザインⅠ	1		
			グラフィックデザインⅡ	1		
			メディアリテラシー演習Ⅰ	2		
コンピュタリテラシー演習	2					
映像メディア表現論	2					
インスタレーション演習Ⅰ	2					
プレゼンテーション演習	2					
映像メディア演習ゼミ	8					
卒業研究・制作	12					

授 業 科 目			単位数又は時間数			備 考
			必修	選択	自由	
専 門 科 目	映 像 メ デ ィ ア	必 修 選 択 科 目	映像メディア演習 (フोट)		3	4科目の中から2科目6単位を履修すること。
			映像メディア演習 (映画・ビデオ)		3	
			映像メディア演習 (コンピュータグラフィックス)		3	
			映像メディア演習 (サウンド)		3	
	映 像 メ デ ィ ア	選 択 科 目	アートとしての数学		2	
			著作権		2	
			メディアリテラシー演習Ⅱ		2	
			情報と職業		2	
			映像史		2	
			映像演出論		2	
			SFX演習		2	
			シナリオ演習		2	
			映画構造分析論		2	
			フィルム映像演習		2	
			フィルムアーカイブ特論		2	
			CM映像論		2	
			ドラマ制作論		2	
			ドキュメンタリー制作論		2	
			ノンリニアエディティング演習		2	
			3DコンピュータアニメーションⅠ		1	
			3DコンピュータアニメーションⅡ		1	
			アニメーション演習Ⅰ		2	
			アニメーション演習Ⅱ		2	
			インタラクティブメディア基礎論		2	
			ネットワーク演習		2	
			Webマネジメント演習		2	
			視覚表現のためのプログラミング演習		2	
			音楽基礎論		2	
			映像サウンド演習		2	
			映像音響論		2	
			サウンド・メディア・アート特別演習		2	
			音響プランニング特別演習		2	
パフォーマンス・アーツ論		2				
パフォーマンス演習		2				
インスタレーション演習Ⅱ		2				
インターメディア・アート論		2				
プロジェクトマネジメント論		2				
放送制作論		2				
Webプログラミング		2				
クリエイティブアニメーション基礎論		2				
マスコミ論		2				
デ ザ イ ン 学 科 専 門 科 目	必 修 科 目	ベーシックデザインⅠ a	3		ベーシックデザインのいずれかの科目で半期に開講される科目の内6単位以上不認定の場合、2年生に留年。	
		ベーシックデザインⅠ b	3			
		ベーシックデザインⅡ a	3			
		ベーシックデザインⅡ b	3			
		ベーシックデザインⅢ a	3			
		ベーシックデザインⅢ b	3			

授 業 科 目		単位数又は時間数			備 考	
		必修	選択	自由		
専 門 科 目	必 修 科 目	ベーシックデザインⅣa (立体空間分野)		6	立体空間分野又はビジュアルコミュニケーションデザイン分野のいずれかを選択すること。	
		ベーシックデザインⅣb (立体空間分野)		6		
		ベーシックデザインⅣa (ビジュアルコミュニケーションデザイン分野)		6		
		ベーシックデザインⅣb (ビジュアルコミュニケーションデザイン分野)		6		
		デザインとコーディネートⅠ	2			
		デザインとコーディネートⅡ	2			
		作品展企画演習	2			
	選 択 科 目	図学Ⅰ		2		
		図学Ⅱ		2		
		デザイン法規		2		
		造形素材論		2		
		デザイン論Ⅰ		2		
		デザイン論Ⅱ		2		
		色彩学		2		
		カラーコーディネート		2		
		デザインマネジメント		2		
		ものづくり講座Ⅰ		2		
		ものづくり講座Ⅱ		2		
		ものづくり講座Ⅲ		2		
		ものづくり講座Ⅳ		2		
		ものづくり講座Ⅴ		2		
		ファンシーデザイン		2		
		海外デザイン研修		2		
		デザイン研修Ⅰ		2		
		デザイン研修Ⅱ		2		
		イベントプランニング		2		
		デッサンⅠ		2		
		デッサンⅡ (絵画を含む)		2		
		彫刻		2		
		マルチメディアⅠ		2		
		マルチメディアⅡ		2		
		マルチメディアⅢ		2		
		マルチメディアⅣ		2		
		博物館概論		2		
博物館学各論Ⅰ		2				
博物館学各論Ⅱ		2				
博物館実習		3				
AD企画論		2				
広告プランニング		2				
DTP		2				
印刷論		2				
ビジュアルコミュニケーションデザインⅠ		6	↑ ①『ビジュアルコミュニケーションデザイン分野』、『立体空間デザイン分野』、『学究・デザインビジネス分野』のいずれかを選択。 ②『ビジュアルコミュニケーションデザイン分野』を選択したものは、ビジュアルコミュニケーションデザインⅠ、Ⅱ、Ⅲ、卒業制作Ⅰ(ビジュアルコミュニケーション)を履修する。 ③なお、ビジュアルコミュニケーションデザインⅠ、Ⅱのいずれかの科目が不認定の場合、3年生に留年。 ↓			
ビジュアルコミュニケーションデザインⅡ		6				
ビジュアルコミュニケーションデザインⅢ		3				
ビジュアルコミュニケーションデザインⅣ		3				
デジタルデザインⅠ(ビジュアルコミュニケーション)		2				
デジタルデザインⅡ(ビジュアルコミュニケーション)		2				
デジタルデザインⅢ(ビジュアルコミュニケーション)		2				
卒業制作Ⅰ(ビジュアルコミュニケーション)		3				
卒業制作Ⅱ(ビジュアルコミュニケーション)		3				

授 業 科 目			単位数又は時間数			備 考		
			必修	選択	自由			
専 門 科 目	デザイン学科専門科目	選 択 科 目	建築論		2	↑ ①『ビジュアルコミュニケーションデザイン分野』、『立体空間デザイン分野』、『学究・デザインビジネス分野』のいずれかを選択。 ②『立体空間デザイン分野』を選択したものは、立体空間デザインⅠ、Ⅱ、Ⅲ卒業制作Ⅰ（立体空間）を履修する。 ③なお、立体空間デザインⅠ、Ⅱのいずれかの科目が不認定の場合、3年生に留年。 ↓ 立体空間デザイン分野		
			空間演出論		2			
			材料学		2			
			環境論		2			
			デザイン製図		2			
			工芸産業史		2			
			製品生産論		2			
			ヒューマンエンジニアリング		2			
			立体空間デザインⅠ		6			
			立体空間デザインⅡ		6			
			立体空間デザインⅢ		3			
			立体空間デザインⅣ		3			
			デジタルデザインⅠ（立体空間）		2			
			デジタルデザインⅡ（立体空間）		2			
			デジタルデザインⅢ（立体空間）		2			
			卒業制作Ⅰ（立体空間）		3			
	卒業制作Ⅱ（立体空間）		3					
				デザイン調査方法論		2	↑ ①『ビジュアルコミュニケーションデザイン分野』、『立体空間デザイン分野』、『学究・デザインビジネス分野』のいずれかを選択。 ②『学究・デザインビジネス分野』を選択したものは、卒業論文並びに11科目のうち8科目を必ず履修すること。 ↓ 学究・デザインビジネス分野	
	商品企画論		2					
	デザイン産業論		2					
	科学技術論		2					
	人間・生態学		2					
	AD企画論		2					
	印刷論		2					
	建築論		2					
	環境論		2					
	製品生産論		2					
	ヒューマンエンジニアリング		2					
	卒業研究		3					
		ファッション造形学科専門科目	共 通 専 門 科 目	デザイン論	2			
	デザイン演習Ⅰ			2				
	デザイン演習Ⅱ				2			
デザイン演習Ⅲ				1				
デッサン	2							
ファッションデザイン画				2				
クリエイティブデザイン演習				2				
コンピュータグラフィックス演習Ⅰ	1							
コンピュータグラフィックス演習Ⅱ				1				
コンピュータファッション企画				1				
バーチャル・ファッション・コーディネート演習				1				
デザイン史				2				

授 業 科 目		単位数又は時間数			備 考	
		必修	選択	自由		
専 門 科 目	フ ア ッ シ ョ ン 造 形 学 科 専 門 科 目	共 通 専 門 科 目	ユニバーサルデザイン	2		
			色彩学	2		
			デザインマネジメント	2		
			カラーコーディネイト	2		
			ファッション造形論	2		
			ファッション造形演習Ⅰ	3		
			ファッション造形演習Ⅱ		3	
			ファッション造形演習Ⅲ		3	
			ドレーピングⅠ		2	
			パターンメイキングⅠ		1	
			コンピュータパターンメイキング演習		2	
			人間工学		2	
			アパレル企画		2	
			アパレル設計・生産		2	
			ファッション素材論	2		
			テキスタイル論		2	
			ファッション素材テスト	2		
			テキスタイルケア	2		
			テキスタイルデザイン		2	
			織・編		2	
			創作テキスタイル		1	
			コンピュータテクスチャ演習		2	
			染色加工学		2	
			染色加工演習		1	
			染色デザインⅠ		2	
			ファッションビジネス論	2		
			ファッション情報論		2	
			ファッション販売論		2	
			マーチャンダイジング		2	
			貿易実務		2	
			プレゼンテーション		1	
			広告デザイン		2	
			スタイリスト演習 (含メイク・ヘアメイク)		1	
			写真・映像演習		1	
舞台芸術・衣装		2				
ディスプレイ		1				
ものづくり講座Ⅰ (刺繍・帽子)		1				
ものづくり講座Ⅱ (陶芸)		1				
ものづくり講座Ⅲ (彫金)		1				
ファッションショー企画・演出		1				
デザイン研修		2				
海外デザイン研修		2				
ファッション造形特別演習Ⅰ		2				

授 業 科 目		単位数又は時間数			備 考	
		必修	選択	自由		
専 門 科 目	共通 専門 科目	ファッションデザイン特別講義		2		
		基礎ゼミナール	1			
		専門ゼミナール	4			
		卒業研究	6			
	フ ア ッ シ ヨ ン 造 形 学 科 専 門 科 目	デ ザ イ ン コ ー ス 専 門 科 目	ファッションクリエイト演習Ⅰ		3	
			ファッションクリエイト演習Ⅱ		2	
			ファッションクリエイト演習Ⅲ		2	
			ドレーピングⅡ		2	
			ドレーピングⅢ		2	
			パターンメイキングⅡ		1	
			パターンメイキングⅢ		1	
			ファッション造形特別演習Ⅱ		2	
	ク リ エ イ テ イ ブ コ ー ス 専 門 科 目	ク リ エ イ テ イ ブ コ ー ス 専 門 科 目	プロダクトデザイン論		2	
			ビジュアルマーチャンダイジング		2	
			グッズ・クリエイトⅠ		2	
			グッズ・クリエイトⅡ		2	
			グッズ・クリエイトⅢ		2	
			染色デザインⅡ		2	
			テキスタイル制作Ⅰ（織）		2	
			テキスタイル制作Ⅱ（編）		2	
	ビ ジ ネ ス コ ー ス 専 門 科 目	ビ ジ ネ ス コ ー ス 専 門 科 目	マーケティング論		2	
			店舗設計		1	
			市場環境論		2	
			マーケティング演習		2	
			ファッション商品論		2	
			ブランドマネジメント		2	
			ビジュアルマーチャンダイジング		2	
			計数管理（会計・簿記）		2	
	ア ド バ イ ザ ー 関 連 科 目	ア ド バ イ ザ ー 関 連 科 目	TAケーススタディ（含インターンシップ）		2	
			コンシューマーサイエンス		2	
消費生活論				2		
テキスタイルケア演習				2		
ファッション環境学				2		
テキスタイルテスト				2		

ヒューマンケア学部

授 業 科 目		単位数又は時間数			備 考
		必修	選択	自由	
教 養 科 目	人間の探求	哲学へのいざない		2	
		宗教と文化		2	
		現代社会と倫理		2	
		心の科学		2	
		青年期の心理		2	
	歴史と文学	日本の歴史		2	
		西洋の歴史		2	
		アジアの歴史		2	
		歴史と社会		2	
		日本の文学		2	
		英米の文学		2	
	社会のしくみ	日本の憲法		2	
		法と社会		2	
		政治と社会		2	
		経済と社会		2	
		企業と社会		2	
	現代社会の特質	情報と社会		2	
		社会学		2	
		アメリカの社会と文化		2	
		民族と文化		2	
		国際社会の動き		2	
	自然科学への いざない	数と形		2	
		確率と統計		2	
		自然のしくみ		2	
		生命の科学		2	
		人間と地球環境		2	
		科学の歴史		2	
	芸術の 世界	美術の世界		2	
		音楽の世界		2	
		文芸の世界		2	
		演劇の世界		2	
	ウェル ネス	スポーツと健康Ⅰ(実習Ⅰ)		1	
		スポーツと健康Ⅱ(実習Ⅱ)		1	
スポーツと健康科学			2		
言語の世界	英語コミュニケーションⅠ	1			
	英語コミュニケーションⅡ	1			
	英語コミュニケーションⅢ		1		
	総合英語Ⅰ	2			
	総合英語Ⅱ	2			
	総合英語Ⅲ		2		
	実践英語Ⅰ		2		
	実践英語Ⅱ		2		
	実践英語Ⅲ		2		
	フランス語Ⅰ		2		
	フランス語Ⅱ		2		
	中国語Ⅰ		2		
	中国語Ⅱ		2		
日本語表現		2			

教養科目は、「人間の探究」又は「歴史と文学」、「社会のしくみ」又は「現代社会の特質」、「自然科学へのいざない」、の分野から各1科目、計3科目6単位以上、「言語の世界」を6単位以上、「情報の技術」を2単位以上、以外に任意の選択科目から10単位、合計24単位以上を履修する。

授 業 科 目		単位数又は時間数			備 考
		必修	選択	自由	
教 養 科 目	情報の技術	情報基礎論		2	
		情報倫理		2	
		情報処理Ⅰ	2		
		情報処理Ⅱ（表計算）		2	
		情報処理Ⅲ（ネットワーク論）		2	
		情報処理Ⅳ（プレゼンテーション）		2	
		情報処理Ⅵ（データベース）		2	
		情報処理Ⅶ（プログラミング）		2	
		情報処理Ⅷ（システム開発と運用）		2	
	学際 のこ ろみ	総合講座Ⅰ		2	
		総合講座Ⅱ		2	
		教養総合演習Ⅰ		2	
教養総合演習Ⅱ			2		
専 門 科 目	学部導 入科目	ヒューマンケア論	2		
		学 子 領域 子ども	子どもケア論Ⅰ	2	
		子どもケア論Ⅱ		2	
	保育・ 教育学 領域	保育概論（保育内容総論）	2		
		教育原論	2		
		比較教育Ⅰ（日米教育比較研究）		2	
		比較教育Ⅱ（幼児理解の研究）		2	
		教育相談とカウンセリング		2	
	保健医 学領域	身体のしくみⅠ	2		
		公衆衛生学（予防医学）		2	
		子どもの病気Ⅰ	2		
		子どもの病気Ⅱ		2	
		小児保健	2		
		小児保健実習		1	
	栄養学 領域	栄養学（食品学）	2		
		子どもの栄養と食生活		2	
		子どもの栄養指導演習		1	
	看護学 領域	看護学Ⅰ	2		
		看護学実習Ⅰ		2	
		救急処置		2	
	看護学 領域	看護概論Ⅰ	2		
	心理学 領域	心理学概論Ⅰ	2		
		精神保健	2		
		教育心理		2	
		発達心理（障害児の発達）	2		
		臨床心理学	2		
		子どものメンタルヘルス		2	
		児童臨床心理学		2	
		子ども人間関係（保育科指導法Ⅶ）		2	
	社会福 祉学 領域	社会福祉論	2		
		子どもの福祉	2		
		障害児の理解と支援		2	
介護実習（障害児介護を含む）			2		

授 業 科 目		単位数又は時間数			備 考		
		必修	選択	自由			
専 門 科 目	学 科 共 通 専 門 科 目	ゼミナール	ゼミナールⅠ（研究導入）	2			
			ゼミナールⅡ（研究展開）	2			
			卒業研究	2			
		そ の 他	子どもケア基礎演習	2			
			子どもと社会		2		
			ボランティア論		2		
			レクリエーション概論		2		
				レクリエーション演習		1	
	子 ど も ケ ア 専 攻 専 門 科 目	衛生学	2				
		微生物学・免疫学	2				
		身体のしくみⅡ		2			
		薬理学		2			
		子どもの病気Ⅲ		2			
		学校環境衛生		2			
		看護学Ⅱ	2				
		看護学実習Ⅱ		2			
		臨床実習指導		1			
		臨床実習		3			
		学校経営論		2			
		学校保健		2			
		学校保健演習		2			
		学校保健実習		2			
		学校健康教育		2			
		学校安全		2			
		思春期保健	2				
		健康相談活動の理論と方法		2			
		健康相談活動演習		2			
		養護概論Ⅱ		2			
		養護活動演習Ⅰ		2			
		養護活動演習Ⅱ		2			
		特別支援教育		2			
		心理学概論Ⅱ	2				
		学習心理学		2			
認知心理学			2				
家族心理学			2				
青年心理学			2				
社会心理学		2					
カウンセリング理論と技法	2						
性格診断		2					
心理統計学		2					
心理統計演習		2					
心理学実験演習Ⅰ		2					
心理学実験演習Ⅱ		2					

授 業 科 目		単位数又は時間数			備 考
		必修	選択	自由	
専 門 科 目	幼 児 保 育 専 攻 専 門 科 目	子育ての原理Ⅰ	2		
		子育ての原理Ⅱ	2		
		社会福祉援助技術Ⅰ	1		
		社会福祉援助技術Ⅱ		1	
		養護原理	2		
		養護内容		2	
		子どもソーシャルワーク		2	
		子育て支援ネットワーク		2	
		家族援助論		2	
		乳児保育	2		
		生活保育		2	
		詩と絵本の世界(保育科指導法Ⅱ)		2	
		子ども文学		2	
		子どもの健康Ⅰ(保育科指導法Ⅳ)	2		
		子どもの健康Ⅱ(保育科指導法Ⅴ)		2	
		ことばからの育ち(保育科指導法Ⅲ)		2	
		子どものあそびとリズム(保育科指導法Ⅵ)	2		
		子どもと環境(保育科指導法Ⅰ)	2		
		文字とことば		2	
		キッズイングリッシュ		1	
		うたとピアノ		1	
		ソルフェージュ		1	
		ピアノ特別演習Ⅰ		1	
		ピアノ特別演習Ⅱ		1	
		子どもの造形活動		2	
		子どものからだ表現		1	
		ダンス		1	
		あそびと運動		1	
		遊戯療法		2	
		保育・教職実践演習(幼・小)		2	
		保育実習指導		1	
		保育実習Ⅰ		4	
		保育実習Ⅱ-A(保育所実習)		2	
保育実習Ⅱ-B(施設実習)		2			
子どもとくらし		2			
くらしと家庭		2			
海外研修	海外子どもケア研修			2	

(別紙資料4)

交通アクセス

地下鉄東山線「上社」駅、地下鉄鶴舞線「赤池」の各駅より専用バスで15分。

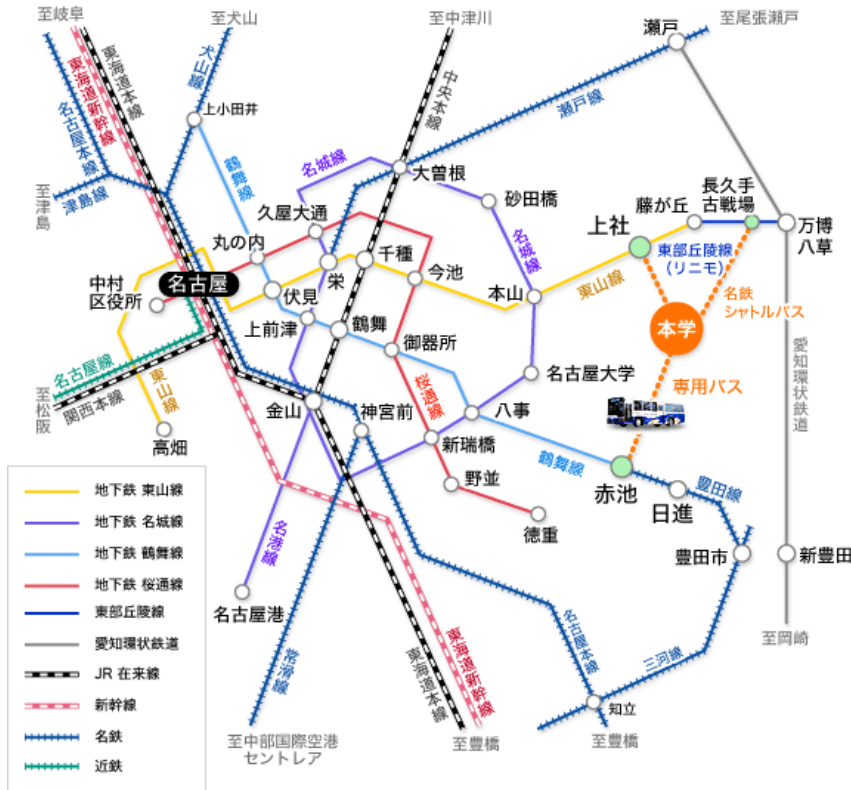
また、「長久手古戦場」駅～大学間の名鉄バスによるシャトルバスが運行しており、本学の学生は無料でご利用頂くことができます。本学にお越しの高校生や保護者の方も無料でご利用できます。(運転手の方に本学訪問の旨お伝え下さい。)

なお、日曜・祝日並びに長期休暇中(8月13日～19日・12月29日～1月5日)は、運休しますのでご注意ください。

無料シャトルバスの「運行日程表」及び「時刻表」はこちらでご確認ください。

・「運行日程表」 (363KB)

・「時刻表」 (54KB)



所在地

〒470-0196

愛知県日進市岩崎町竹ノ山 57

(代表)TEL:0561-75-7111

専用バスのご案内

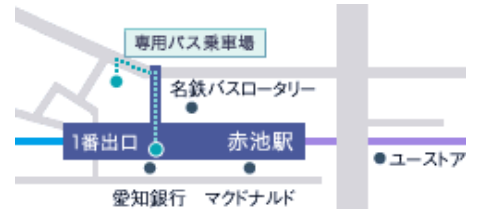
キャンパスへは、「上社」、「赤池」の2駅から授業時間帯に合わせて専用バスが頻繁に運行しています。

所要時間はいずれも約15分。特に登校時の上社方面は3～5分間隔で運行しています。

上社駅乗車場



赤池駅乗車場



(別紙資料5)

入学検定料・入学金及び学費 (授業料・施設費及び演習・実験・実習費)

● 名古屋学芸大学大学院

- ・ 栄養科学研究科栄養科学専攻博士前期課程 (単位：円)

品目	1年次	2年次	計	備考
入学検定料			35,000	
入学金	100,000		100,000	
授業料	765,000	765,000	1,530,000	
施設費	190,000	190,000	380,000	
計(除く入学検定料)	1,055,000	955,000	2,010,000	

- ・ 栄養科学研究科栄養科学専攻博士後期課程 (単位：円)

品目	1年次	2年次	3年次	計	備考
入学検定料				35,000	
入学金	100,000			100,000	
授業料	765,000	765,000	775,000	2,305,000	
施設費	190,000	190,000	190,000	570,000	
計(除く入学検定料)	1,055,000	955,000	965,000	2,975,000	

- ・ メディア造形メディア造形専攻修士課程 (単位：円)

品目	1年次	2年次	計	備考
入学検定料			35,000	
入学金	100,000		100,000	
授業料	975,000	975,000	1,950,000	
施設費	200,000	200,000	400,000	
計(除く入学検定料)	1,275,000	1,175,000	2,450,000	

● 名古屋学芸大学

・ 管理栄養学部管理栄養学科 (単位：円)

品目	1年次	2年次	3年次	4年次	計	備考
入学検定料					35,000	
入学金	200,000				200,000	
授業料	765,000	765,000	775,000	775,000	3,080,000	
施設費	380,000	380,000	380,000	380,000	1,520,000	
実験・実習費	50,000	50,000	100,000	100,000	300,000	
計(除く入学検定料)	1,395,000	1,195,000	1,255,000	1,255,000	5,100,000	

・ メディア造形学部映像メディア学科 (単位：円)

品目	1年次	2年次	3年次	4年次	計	備考
入学検定料					35,000	
入学金	200,000				200,000	
授業料	975,000	975,000	985,000	985,000	3,920,000	
施設費	400,000	400,000	400,000	400,000	1,600,000	
実験・実習費	100,000	100,000	100,000	100,000	400,000	
計(除く入学検定料)	1,675,000	1,475,000	1,485,000	1,485,000	6,120,000	

・ メディア造形学部デザイン学科 (単位：円)

品目	1年次	2年次	3年次	4年次	計	備考
入学検定料					35,000	
入学金	200,000				200,000	
授業料	975,000	975,000	985,000	985,000	3,920,000	
施設費	400,000	400,000	400,000	400,000	1,600,000	
実験・実習費	50,000	50,000	100,000	100,000	300,000	
計(除く入学検定料)	1,625,000	1,425,000	1,485,000	1,485,000	6,020,000	

・ メディア造形学部ファッション造形学科 (単位：円)

品目	1年次	2年次	3年次	4年次	計	備考
入学検定料					35,000	
入学金	200,000				200,000	
授業料	825,000	825,000	835,000	835,000	3,320,000	
施設費	400,000	400,000	400,000	400,000	1,600,000	
実験・実習費	50,000	50,000	100,000	100,000	300,000	
計(除く入学検定料)	1,475,000	1,275,000	1,335,000	1,335,000	5,420,000	

・ ヒューマンケア学部子どもケア学科 (単位：円)

品目	1年次	2年次	3年次	4年次	計	備考
入学検定料					35,000	
入学金	200,000				200,000	
授業料	700,000	720,000	740,000	760,000	2,920,000	
施設費	380,000	380,000	380,000	380,000	1,520,000	
実験・実習費	50,000	50,000	50,000	50,000	200,000	
計(除く入学検定料)	1,330,000	1,150,000	1,170,000	1,190,000	4,840,000	

・ メディア造形学部映像メディア学科3年次編入 (単位：円)

品目	3年次	4年次	計	備考
入学検定料			35,000	
入学金	100,000		100,000	
授業料	985,000	985,000	1,970,000	
施設費	400,000	400,000	800,000	
実験・実習費	100,000	100,000	200,000	
計(除く入学検定料)	1,585,000	1,485,000	3,070,000	

・ メディア造形学部デザイン学科3年次編入 (単位：円)

品目	3年次	4年次	計	備考
入学検定料			35,000	
入学金	100,000		100,000	
授業料	985,000	985,000	1,970,000	
施設費	400,000	400,000	800,000	
実験・実習費	100,000	100,000	200,000	
計(除く入学検定料)	1,585,000	1,485,000	3,070,000	

・ メディア造形学部ファッション造形学科3年次編入 (単位：円)

品目	3年次	4年次	計	備考
入学検定料			35,000	
入学金	100,000		100,000	
授業料	835,000	835,000	1,670,000	
施設費	400,000	400,000	800,000	
実験・実習費	100,000	100,000	200,000	
計(除く入学検定料)	1,435,000	1,335,000	2,770,000	

・ ヒューマンケア学部子どもケア学科3年次編入 (単位：円)

品目	3年次	4年次	計	備考
入学検定料			35,000	
入学金	100,000		100,000	
授業料	740,000	760,000	1,500,000	
施設費	380,000	380,000	760,000	
実験・実習費	50,000	50,000	100,000	
計(除く入学検定料)	1,270,000	1,190,000	2,460,000	

名古屋学芸大学短期大学部

(別紙資料 1)

専任教員数一覧

名古屋学芸大学短期大学部

(単位：人)

学部名等	学長		教授		准教授		講師		助教		助手		計		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
現代総合学科			3	7	1	4	1	4					5	15	20
一般教育			3	0			0	1					3	1	4
その他			1	0			1	0					2	0	2
計			7	7	1	4	2	5					10	16	26

短期大学部学長は名古屋学芸大学長と兼務



(別紙資料2)

基礎・人間教育科目

授 業 科 目	単位数		備 考
	必修	選択	
人間理解A (生き方を考える)		2	
人間理解B (「こころ」を学ぶ)		2	
人間理解C (文学にみる人間像)		2	
人間理解D (世界の中の日本文化)		2	
現代社会理解A (社会と法)		2	
現代社会理解B (くらしの経済学)		2	
現代社会理解C (情報社会と倫理)		2	
現代社会理解D (エコロジーを考える)		2	
地域を学ぶ		2	
スポーツと健康A		1	
スポーツと健康B		2	
基礎ゼミナールⅠ	1		
基礎ゼミナールⅡ	1		
コミュニケーショントレーニング		1	
オーラルコミュニケーションA		1	
オーラルコミュニケーションB		1	
情報リテラシーA		1	
情報リテラシーB		1	
キャリア講座A (職業と人間)	2		
キャリア講座B (インターンシップ)		2	
地域ボランティア体験		2	
海外ボランティア体験 (海外研修プログラム)		2	
合 計	4	32	

生活科学系

授 業 科 目	単位数		備 考
	必修	選択	
食生活(食文化を含む)		2	
食品と栄養		2	
フードコーディネート論		2	
テーブルコーディネート		2	
テーブルデコレーション		2	
調理学		2	
調理学実験		2	
調理学実習A(日本料理)		2	
調理学実習B(中国料理・薬膳)		2	
調理学実習C(西洋料理)		2	
調理学実習D(製菓・製パン)		2	
食品加工		2	
食環境の研究		2	
家庭看護		2	
生活とマナー		2	
生活経営		2	
消費生活		2	
保育学		2	
福祉住環境コーディネイト		1	
インテリアコーディネイト		1	
食とすまい		2	
生活工芸		2	
生活と健康		2	
介護と福祉		2	
ユニバーサルデザイン		2	
身体と心のコミュニケーションA		2	
身体と心のコミュニケーションB		1	
カラーコーディネイト		2	
イラストレーション		2	
ファッションデザインI		2	
ファッションデザインII		2	
テキスタイルケア		2	
ファッション商品論		2	
スタイリスト実習		1	
デザインマネージメント		2	
デジタルファッションクリエイトI		2	
デジタルファッションクリエイトII		2	
服飾文化史		2	

授 業 科 目	単位数		備 考
	必修	選択	
衣生活		2	
アパレル造形論		2	
ファッション素材論		2	
アパレル造形I		2	
アパレル造形II		2	
アパレル造形III		4	
アパレル造形IV		4	
ディテールメイキング		2	
ドレーピング		2	
アパレルCAD I		2	
アパレルCAD II		2	
デザイン論		2	
色彩学		2	
デッサン		2	
ビジュアルコミュニケーションデザインI		1	
ビジュアルコミュニケーションデザインII		1	
グラフィックデザインI(ベーシックデザイン)		2	
グラフィックデザインII(含基礎造形)		2	
CGリテラシー		1	
デジタル映像表現		2	
グラフィックデザインIII		2	
グラフィックデザインIV		2	
ビジュアルコミュニケーションデザインIII		2	
ビジュアルコミュニケーションデザインIV		2	
サインデザイン		2	
WebディレクションI		2	
WebディレクションII		2	
クラフト(含アクセサリー)		2	
漫画・キャラクタデザイン		2	
空間プロデュース		2	
ショップデザイン		2	
クリエイティブプログラムデザイン		2	
インテリアパース		1	
インテリアCAD		1	
インテリア実習		2	
計		141	

別表第2
教職科目

区分	授業科目	単位数		備考
		必修	選択	
養護に関する科目	衛生学		2	必修
	公衆衛生学(含予防医学)		2	必修
	学校保健		2	必修
	学校保健実習Ⅰ		2	必修
	学校保健実習Ⅱ		2	
	養護概説Ⅰ		2	必修
	養護概説Ⅱ		2	
	健康相談活動Ⅰ		2	必修
	健康相談活動Ⅱ		2	
	栄養学(含食品学)		2	必修
	解剖学		2	必修
	生理学		2	必修
	微生物学及免疫学		2	必修
	薬理概論		2	必修
	精神保健		2	必修
	看護学Ⅰ		2	必修
	看護学Ⅱ		2	必修
	看護学実習		2	必修
	臨床実習指導		2	必修
	臨床実習		3	必修
救急処置		2	必修	
教職に関する科目	教師論		2	必修
	教育基礎論		2	必修 教育課程の意義及び編成の方法を含む。
	発達と学習		2	必修
	教育課程論		2	必修
	生徒指導		2	必修
	教育相談		2	必修
	養護実習指導		1	必修
	養護実習		3	必修
	教職実践演習(養護教諭)		2	必修
その他の科目	日本の憲法		2	必修
	スポーツと健康A		1	必修
	スポーツと健康B		2	必修
	オーラルコミュニケーションA		1	必修
	オーラルコミュニケーションB		1	必修
	教職パソコン基礎		2	必修

(別紙資料3)

交通アクセス

地下鉄東山線「上社」駅、地下鉄鶴舞線「赤池」の各駅より専用バスで15分。

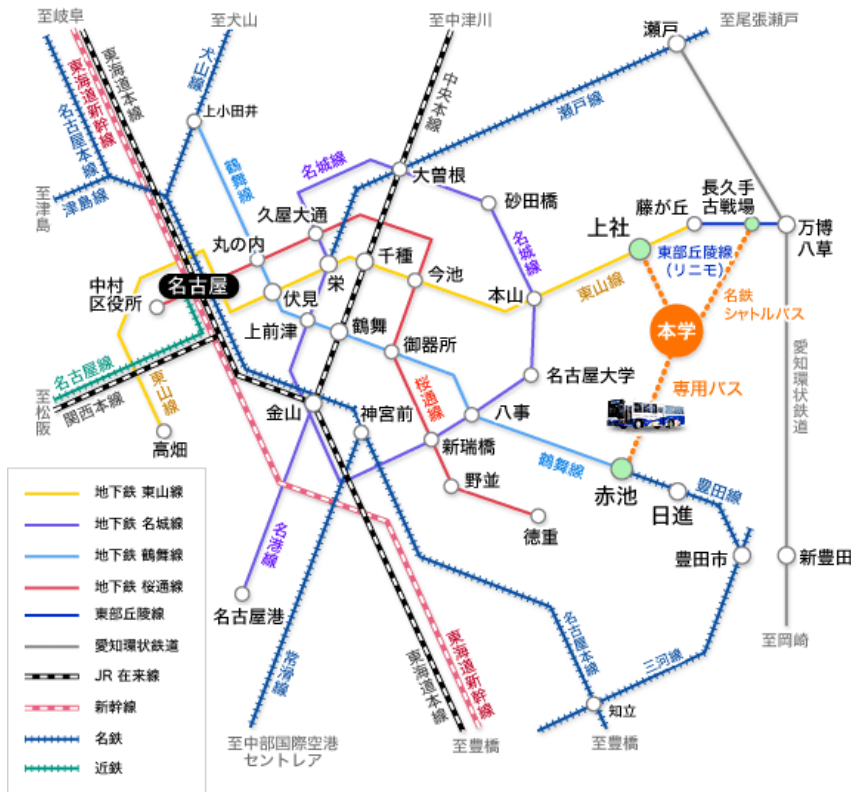
また、「長久手古戦場」駅～大学間の名鉄バスによるシャトルバスが運行しており、本学の学生は無料でご利用頂くことができます。本学にお越しの高校生や保護者の方も無料でご利用できます。(運転手の方に本学訪問の旨お伝え下さい。)

なお、日曜・祝日並びに長期休暇中(8月13日～19日・12月29日～1月5日)は、運休しますのでご注意ください。

無料シャトルバスの「運行日程表」及び「時刻表」はこちらでご確認ください。

・「[運行日程表](#)」(363KB)

・「[時刻表](#)」(54KB)



所在地

〒470-0196

愛知県日進市岩崎町竹ノ山 57

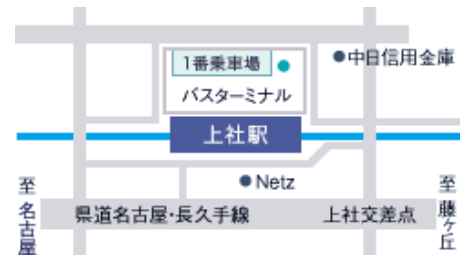
(代表)TEL:0561-75-7111

専用バスのご案内

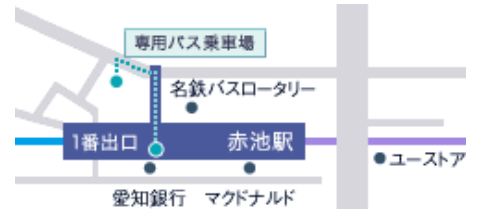
キャンパスへは、「上社」、「赤池」の2駅から授業時間帯に合わせて専用バスが頻繁に運行しています。

所要時間はいずれも約15分。特に登校時の上社方面は3～5分間隔で運行しています。

上社駅乗車場



赤池駅乗車場



(別紙資料4)

入学検定料・入学金及び学費 (授業料・施設費及び演習・実験・実習費)

● 名古屋学芸大学短期大学部

・ 現代総合学科

(単位：円)

品目	1年次	2年次	計	備考
入学検定料			35,000	
入学金	250,000		250,000	
授業料	690,000	690,000	1,380,000	
施設費	380,000	380,000	760,000	
実験・実習費	62,000	62,000	124,000	
計(除く入学検定料)	1,382,000	1,132,000	2,514,000	

